

## 小規模企業景気動向調査 [2025年8月期調査] ～緩やかな回復が続く中、利益確保が鍵となる小規模企業景況～

### <産業全体>

8月期の産業全体の景況は、売上額DIが小幅に上昇、資金繰り・業況DIはわずかに上昇し、採算DIは不変だった。資金繰り・業況DIは5月期から4か月連続で上昇。コスト高や人手不足に苦しみ小規模事業者が多い中、最低賃金額改定目安が公表され、さらなる人件費の上昇を懸念する声が散見されたことにより、産業全体としては緩やかな回復に留まった。

	DI	7月	8月	前月比	前年 同月比
売上額		4.4	7.2	2.8	4.7
採算	▲	17.1	▲ 17.2	▲ 0.1	▲ 1.1
資金繰り	▲	14.7	▲ 13.7	1.0	▲ 1.1
業況	▲	14.2	▲ 13.0	1.2	▲ 2.0

### <製造業(食料品、繊維、機械・金属)>一時的回復から継続的改善へ期待が高まる製造業

製造業は、売上額DIが大幅に上昇、採算・業況DIは小幅に上昇し、資金繰りDIはわずかに上昇した。季節需要等の影響により、10か月ぶりに全DIが上昇したが、売上額を除き、前年同月を上回るまでには至らなかった。繊維関連は、季節需要等から売上を維持しているが、人件費や仕入価格上昇等に苦しみ状況が続いている。一方、小ロットの注文等、受注は安定しているとの声もあり、小規模事業者ならではの取組が期待される。

	DI	7月	8月	前月比	前年 同月比
売上額		1.3	6.4	5.1	4.8
採算	▲	21.9	▲ 19.8	2.1	▲ 1.0
資金繰り	▲	17.0	▲ 16.5	0.5	▲ 2.6
業況	▲	19.7	▲ 17.1	2.6	▲ 3.6

### <建設業>堅調な需要の中、人手不足・人件費増加への対応が急がれる建設業

建設業は、資金繰りDIが小幅に上昇、売上額・業況DIはわずかに上昇し、採算DIはわずかに低下した。売上額DIとしては5月から3か月連続で上昇も、資材高騰や人手不足による外注依存により採算は悪化した。各地で災害が多発する中、被災地での復旧支援により、稼働が高水準で推移しているとの声も聞かれており、需要は堅調であるが、設備投資による省力化や業務効率化等、人手不足及び人件費増加への対応が求められる。

	DI	7月	8月	前月比	前年 同月比
売上額		7.2	9.1	1.9	4.1
採算	▲	15.3	▲ 16.2	▲ 0.9	▲ 1.9
資金繰り	▲	15.8	▲ 13.1	2.7	0.7
業況	▲	11.4	▲ 10.5	0.9	▲ 0.8

### <小売業(衣料品、食料品、耐久消費財)>物価高による消費低迷から、回復の機運に乗り切れない小売業

小売業は、売上額DIがわずかに上昇、資金繰り・業況DIはわずかに低下し、採算DIは小幅に低下した。衣料品・食料品関連は、季節需要により、売上額DIは上昇したが、長引くコスト高の影響で、継続的な価格改定が難しい。また、消費者の節約志向が続いており、採算や資金繰りの悪化を示すコメントが散見された。耐久消費財関連は、好調の声も散見されたが、猛暑による外出控えや仕入価格上昇等により、売上額・採算DIは低下した。

	DI	7月	8月	前月比	前年 同月比
売上額		3.7	5.2	1.5	6.8
採算	▲	19.3	▲ 21.9	▲ 2.6	▲ 1.6
資金繰り	▲	15.0	▲ 16.1	▲ 1.1	▲ 0.3
業況	▲	17.6	▲ 18.1	▲ 0.5	▲ 1.4

### <サービス業(旅館、クリーニング、理・美容)>旅館関連がけん引するも、コスト高に苦しむサービス業

サービス業は、売上額・資金繰り・業況DIが小幅に上昇、採算DIはわずかに上昇した。継続するインバウンド需要に季節行事等が重なり、サービス業全体で5か月ぶりに全DIが上昇。特に旅館業は、4か月ぶりに業況DIがプラス値となった。反面、原材料価格等の高止まりは継続しており、旅館や理・美容関連では、猛暑による電気コスト増に苦しみ声も散見された。外部環境に依存しない持続可能な収益構造の構築が急務である。

	DI	7月	8月	前月比	前年 同月比
売上額		5.2	8.3	3.1	3.3
採算	▲	11.9	▲ 10.8	1.1	0.2
資金繰り	▲	11.0	▲ 9.0	2.0	▲ 2.0
業況	▲	8.3	▲ 6.1	2.2	▲ 1.8

#### 調査概要

・調査対象: 全国 303 商工会の経営指導員(有効回答数: 248/回答率 81.8%)

・調査時点: 2025年8月末

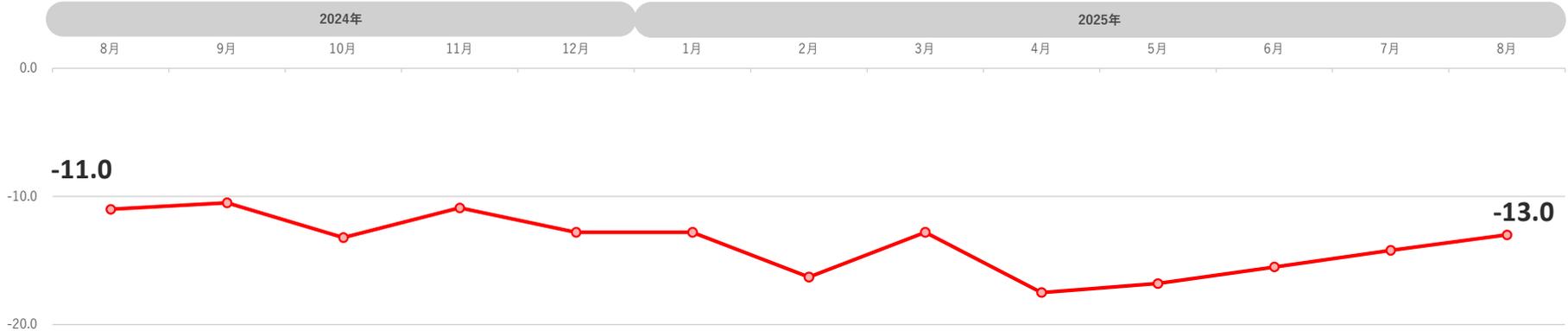
・調査方法: 対象商工会経営指導員による調査票への選択記入式

※ DI(景気動向指数)は各調査項目について、増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。

### 小規模企業景気動向調査 産業全体の業況DIグラフ～過去20年のトレンド～

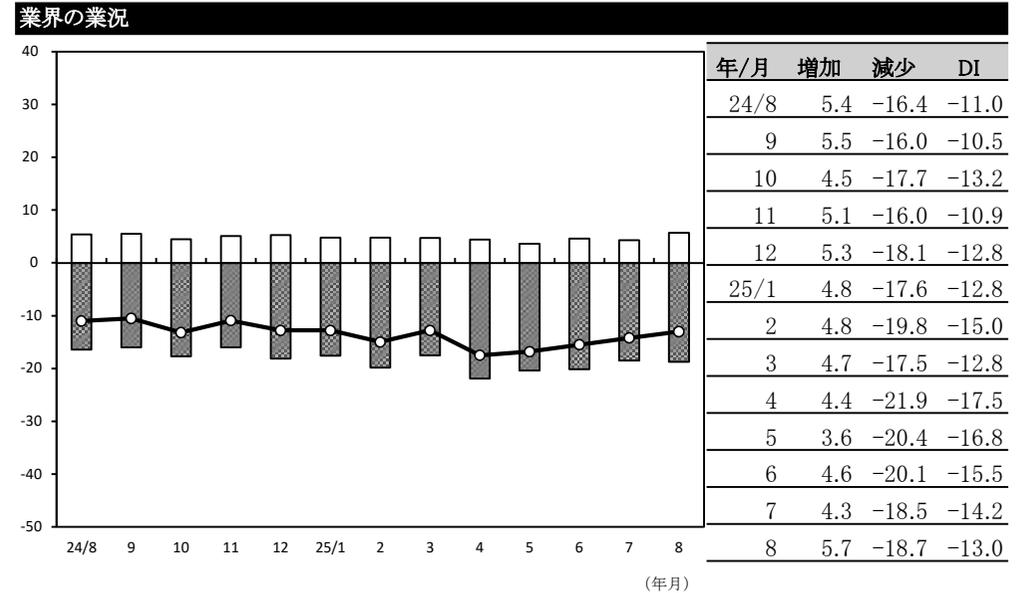
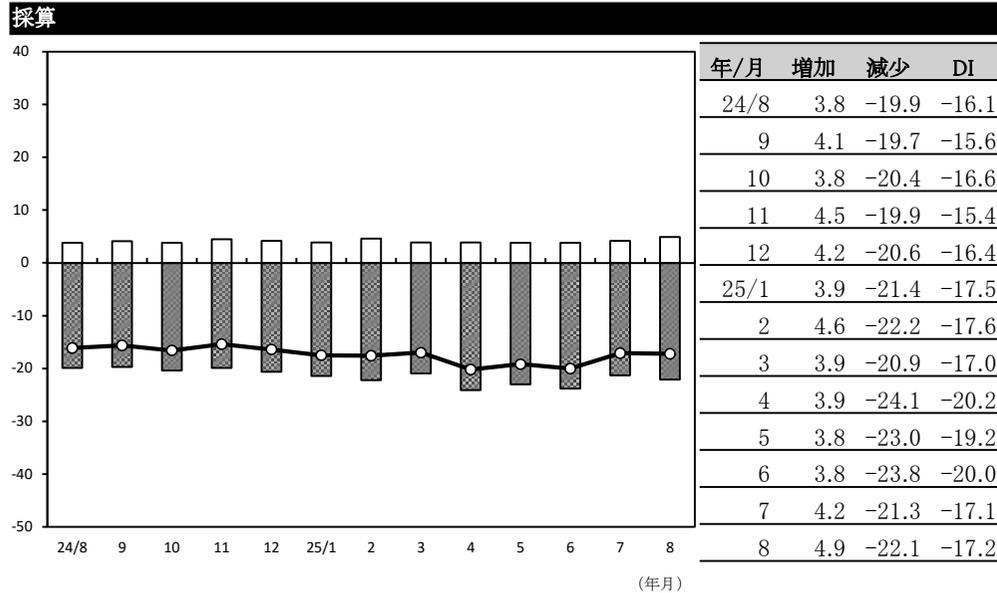
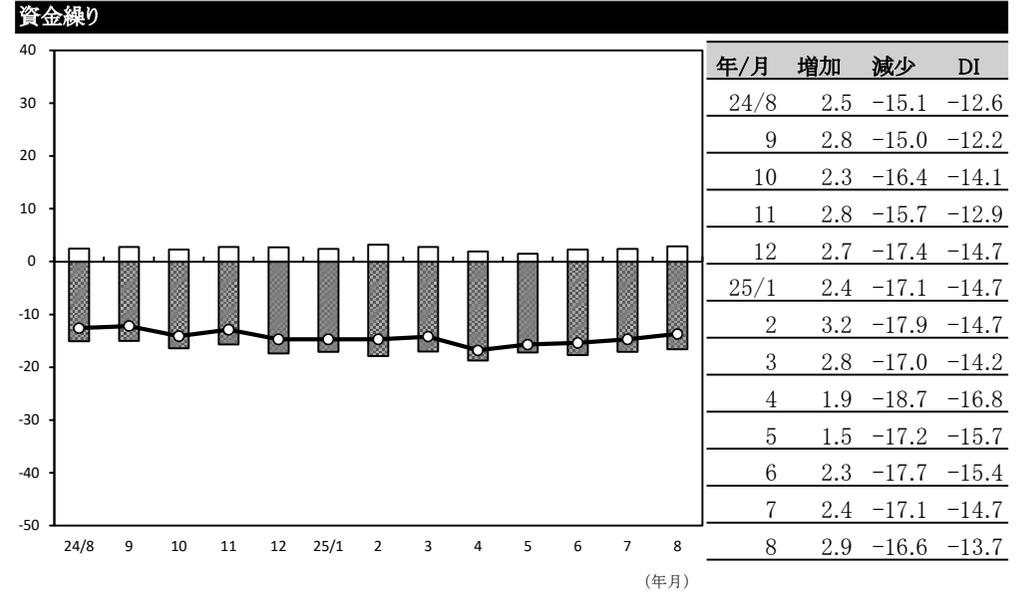
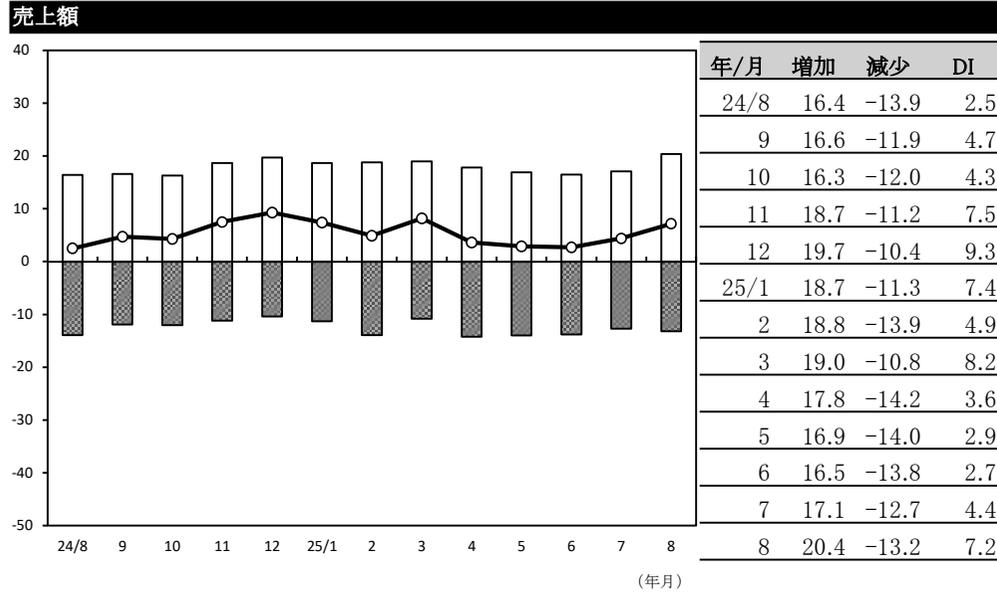


### 産業全体の業況DIグラフ～直近1年間～

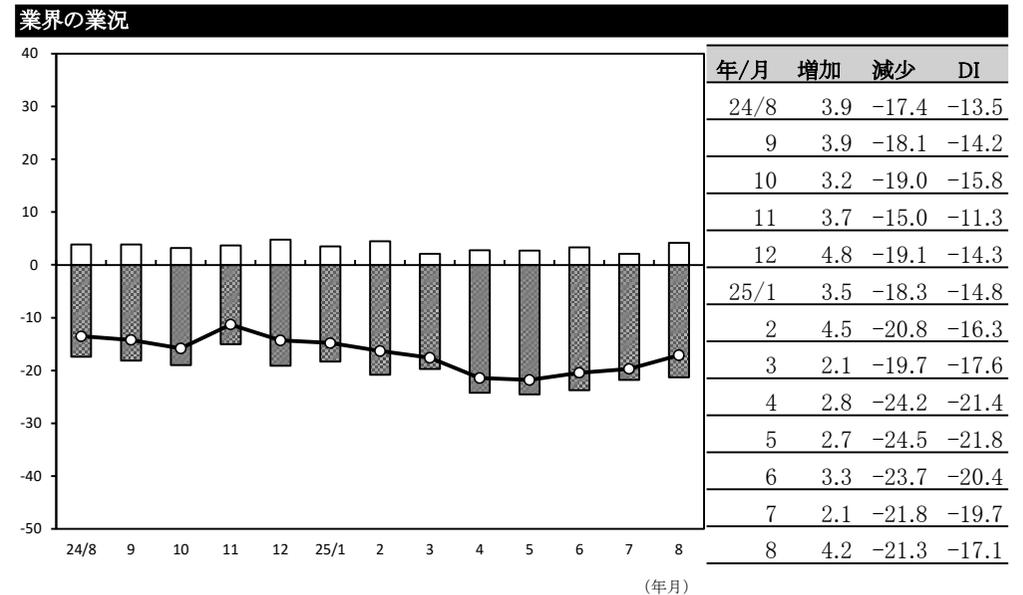
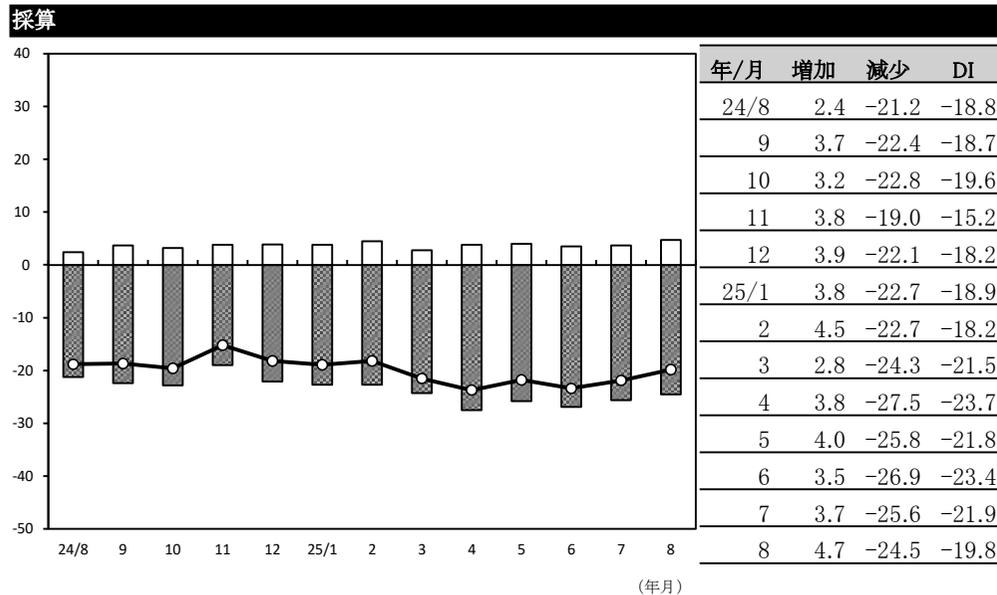
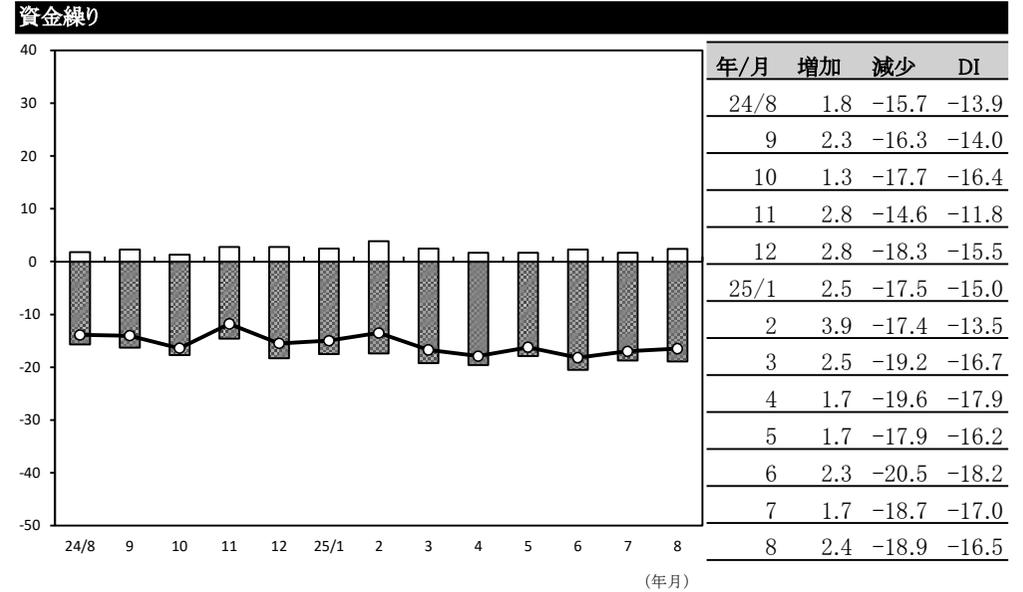
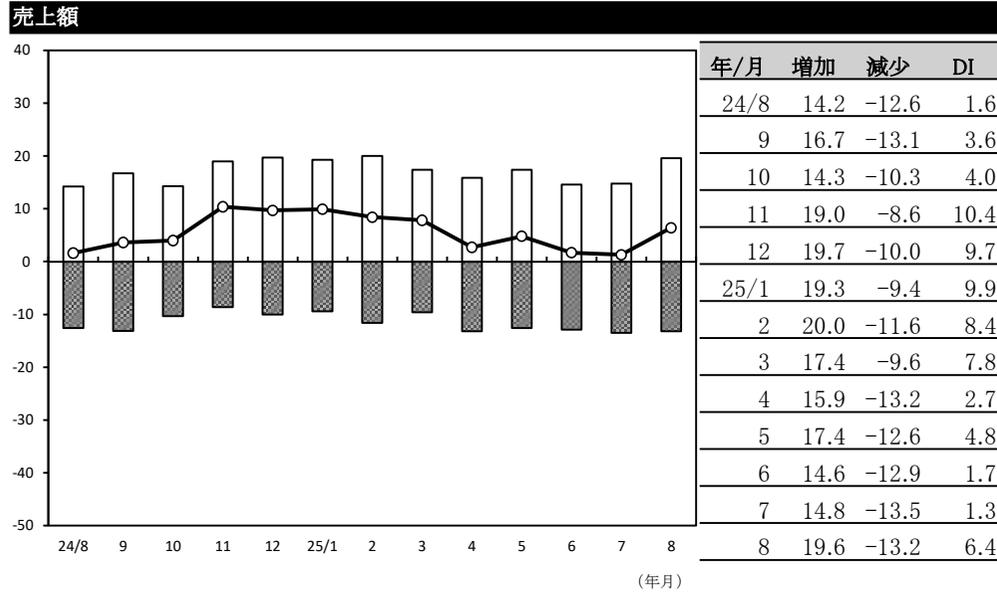


# 小規模企業景気動向調査(2025年8月期)

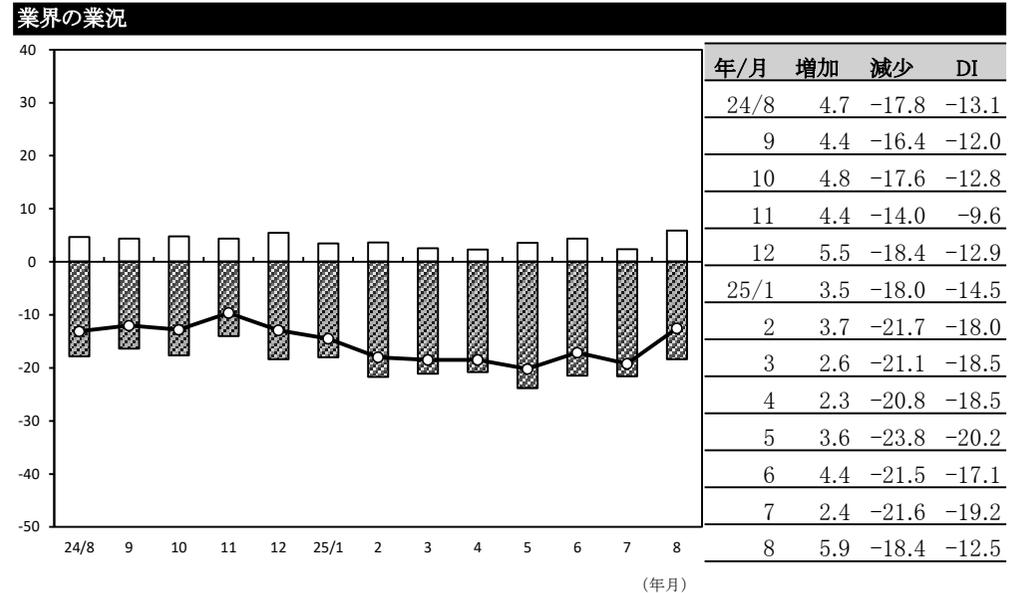
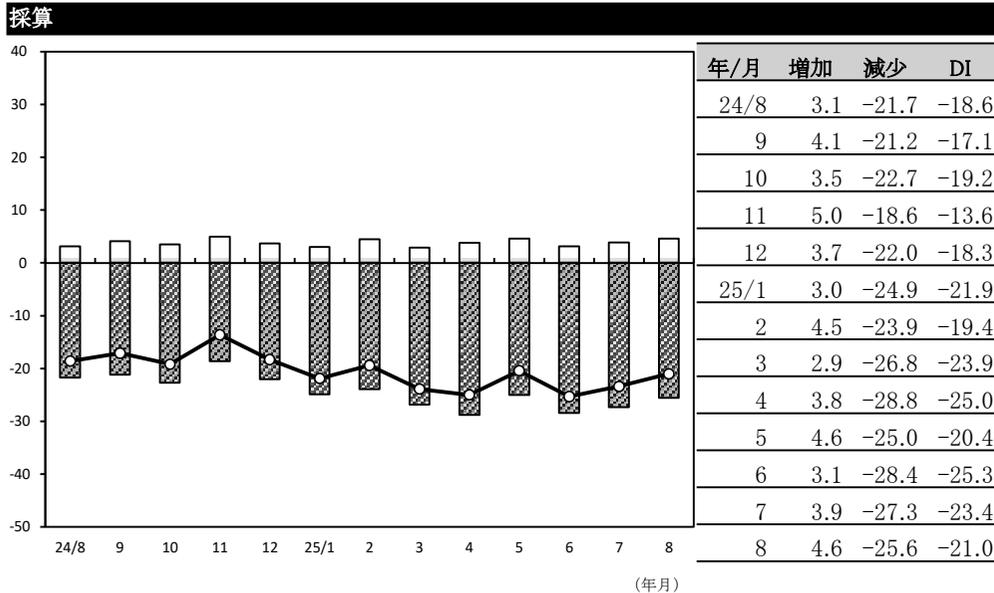
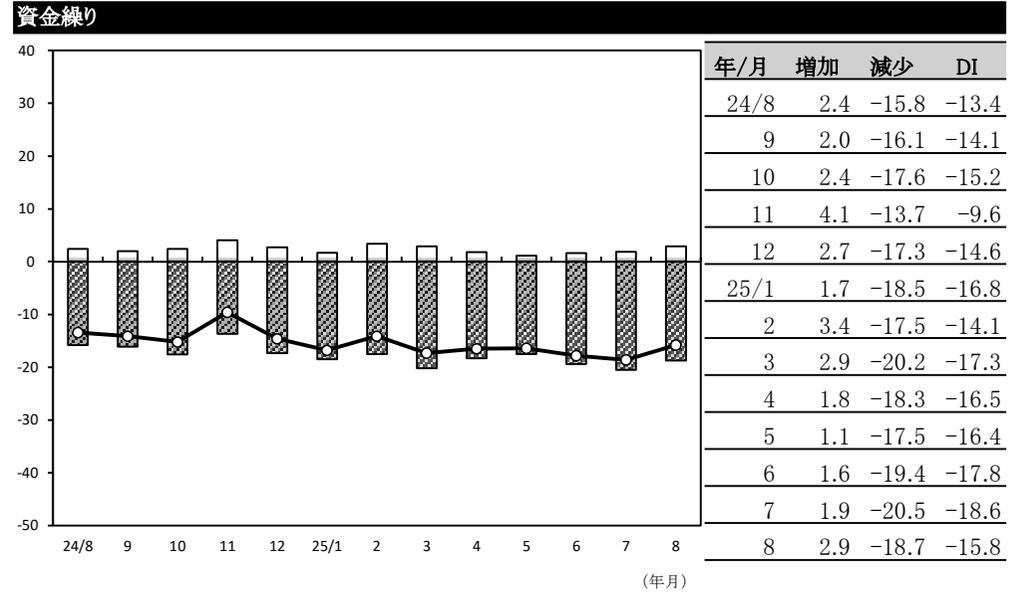
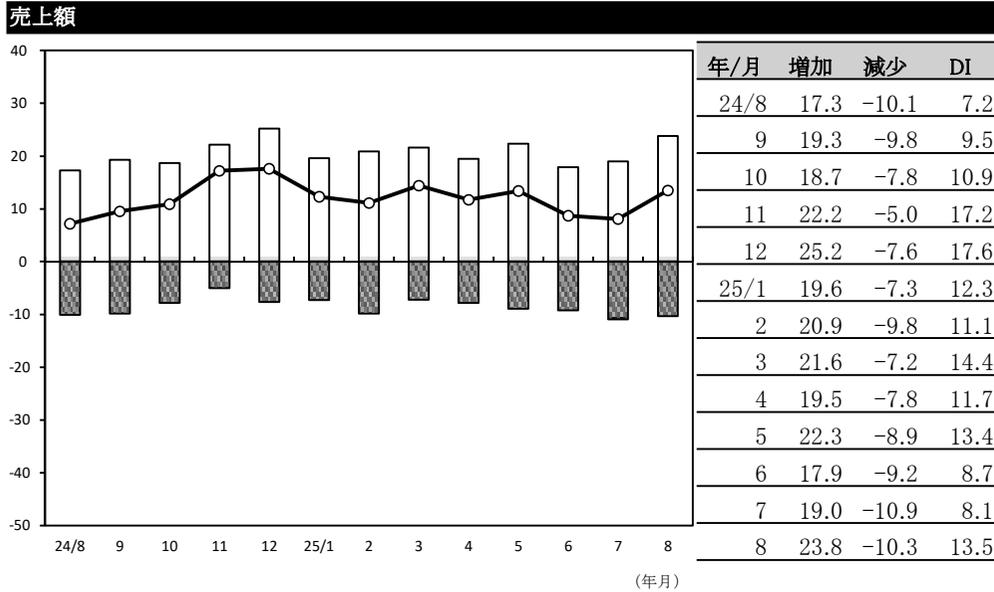
## 産業全体(前年同月比)



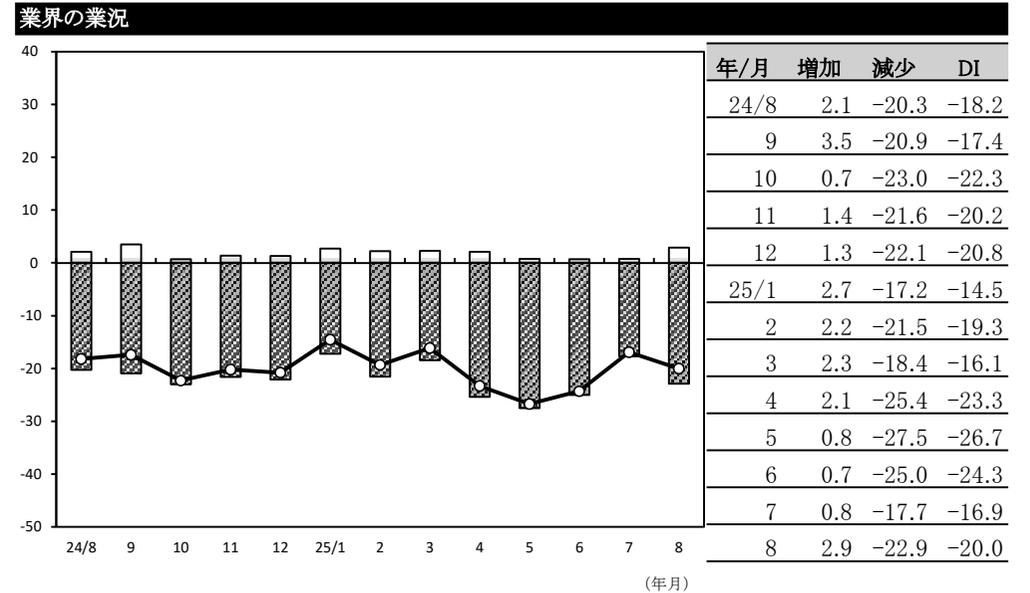
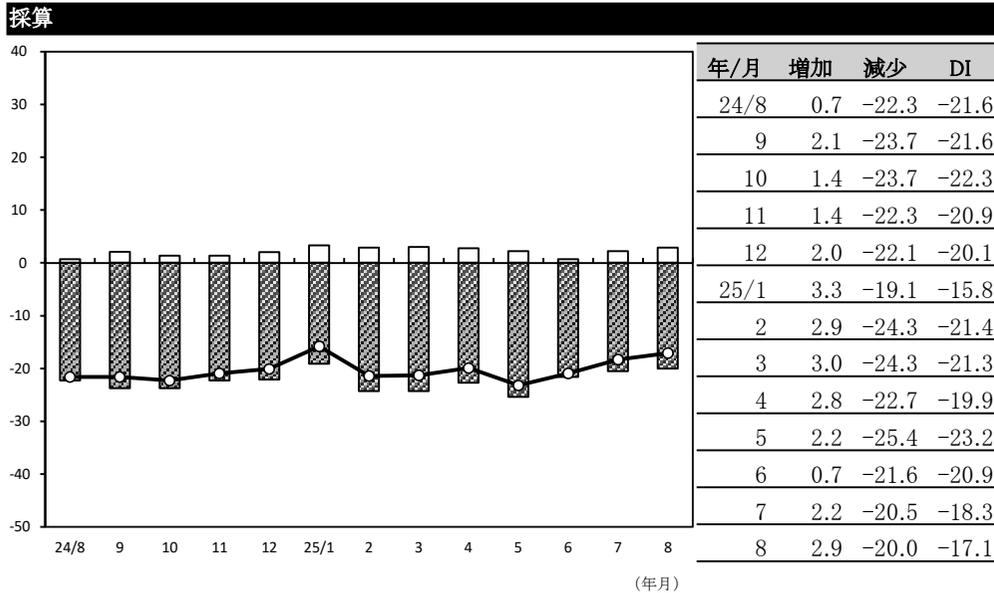
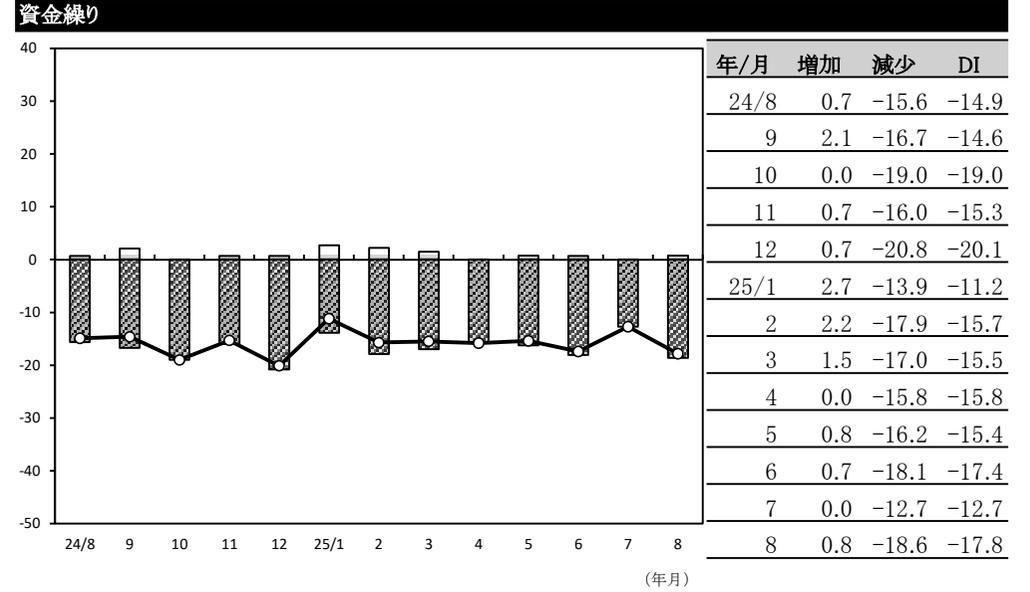
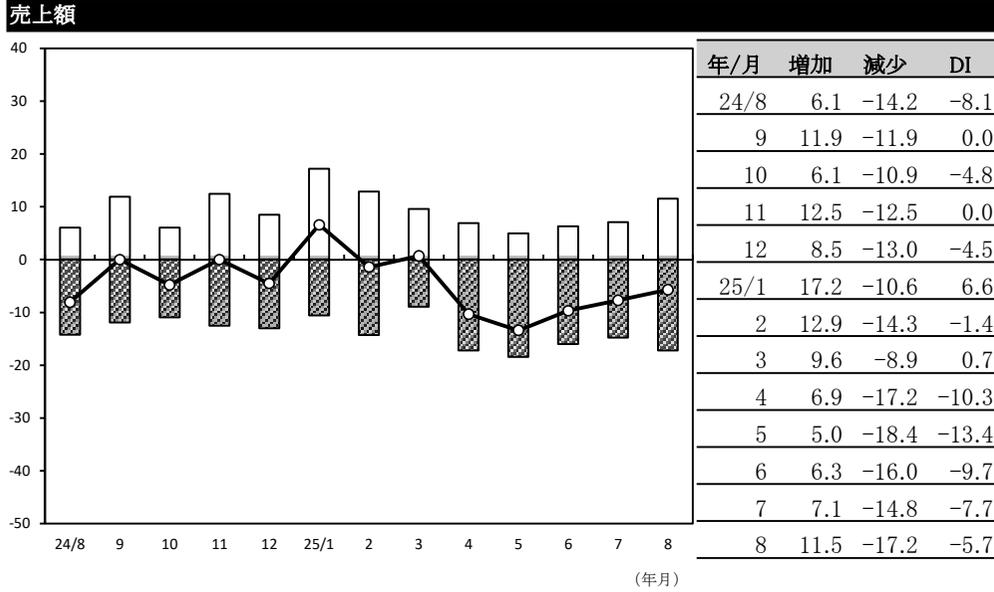
# 製造業(前年同月比)



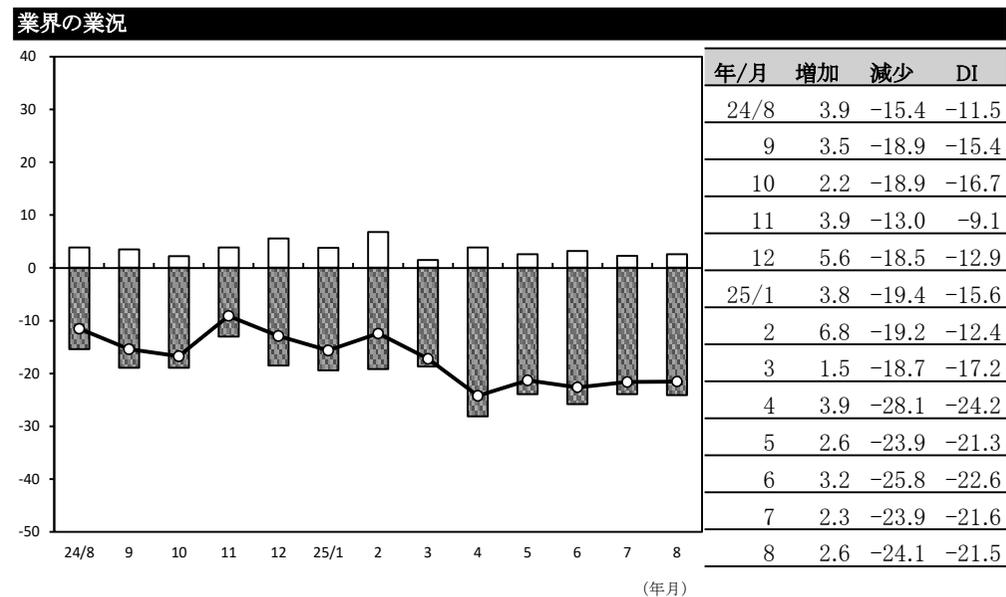
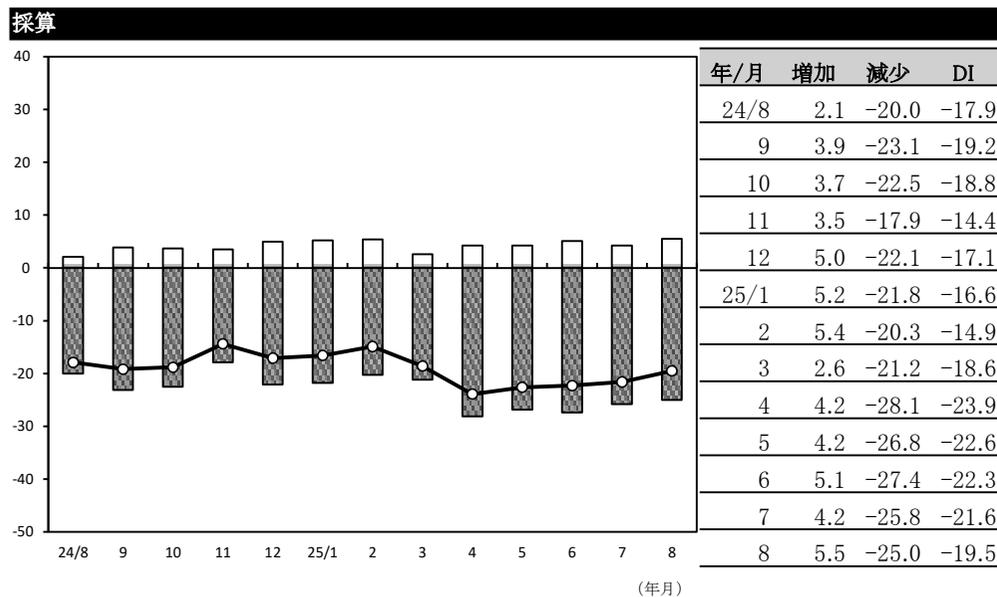
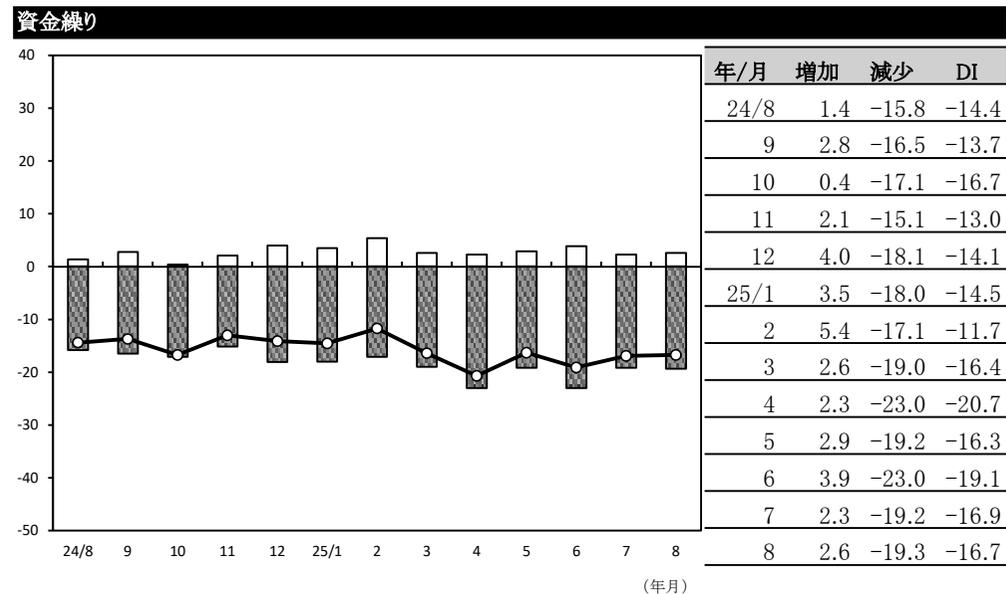
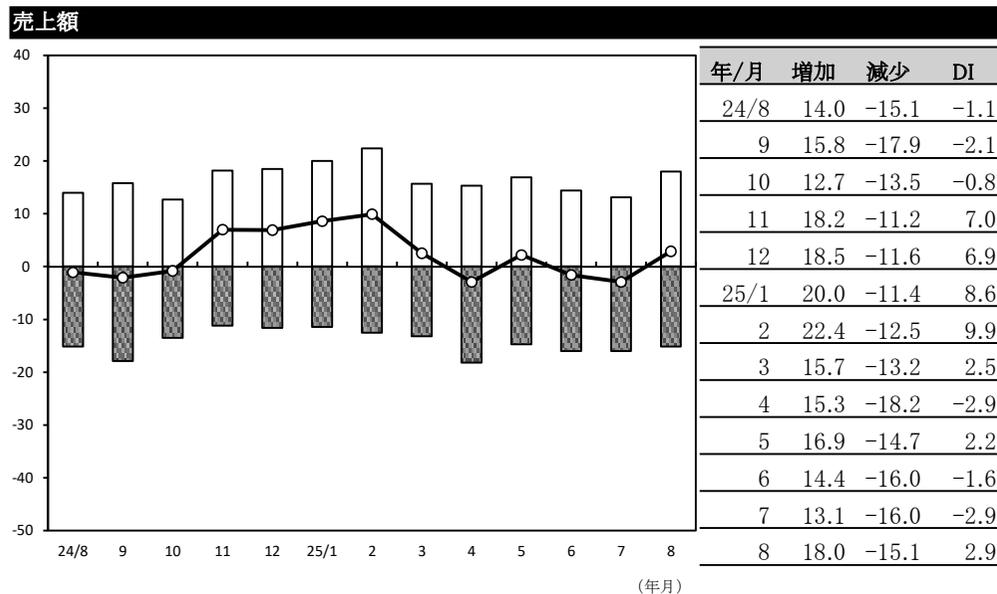
# 製造業【食料品】（前年同月比）



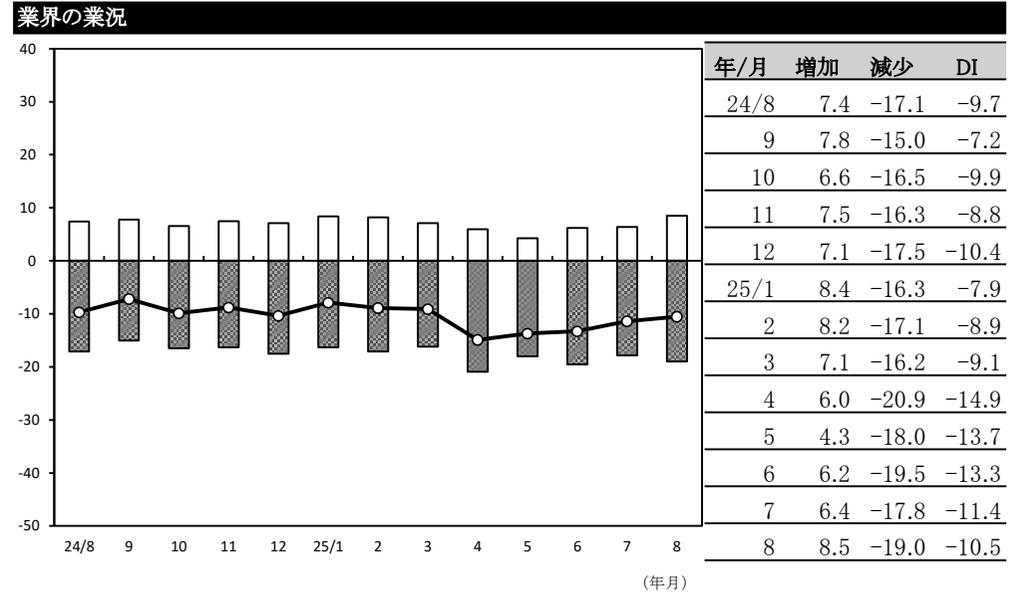
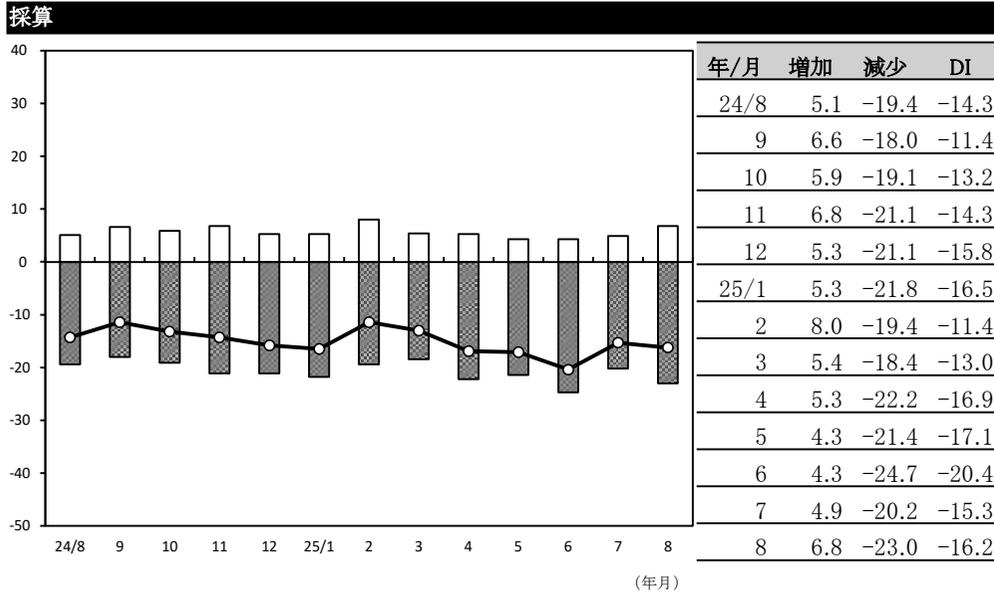
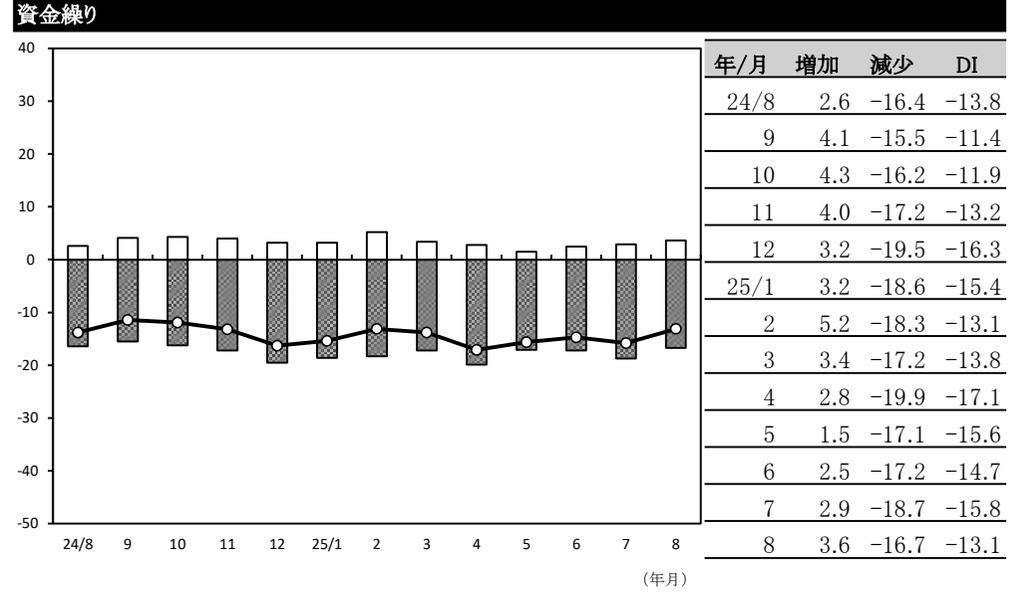
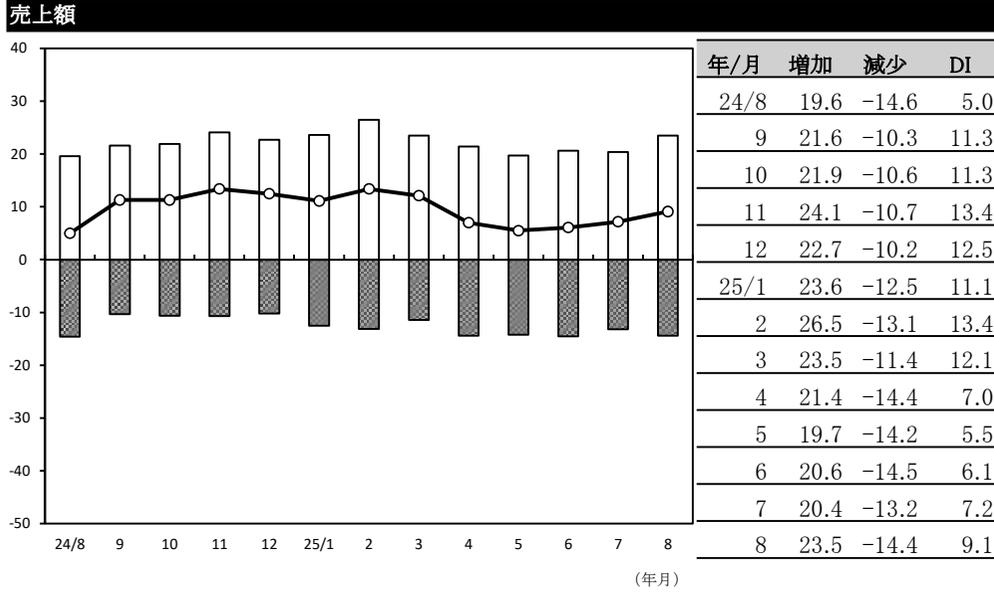
## 製 造 業【繊維】（前年同月比）



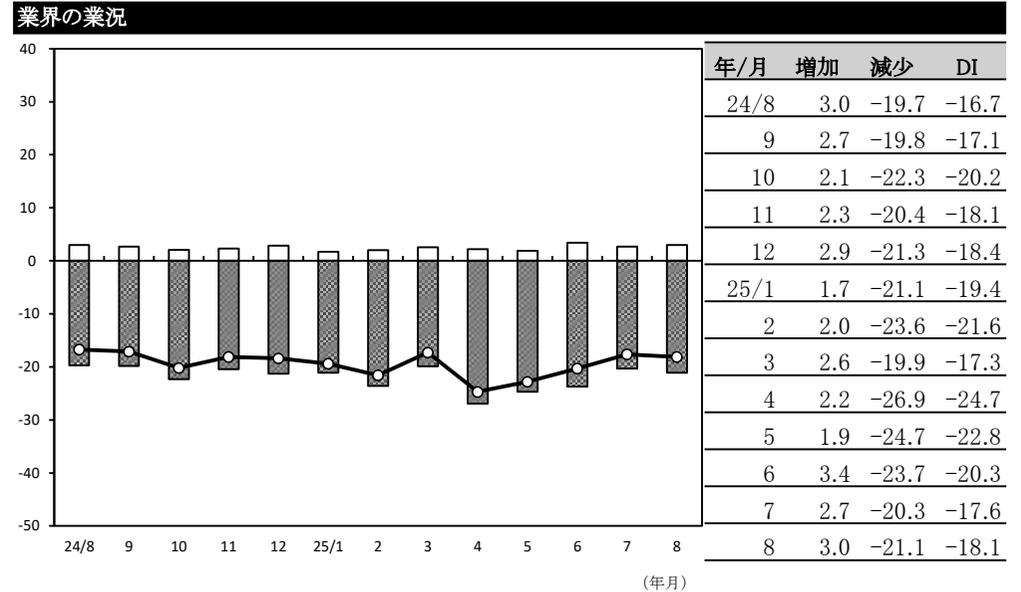
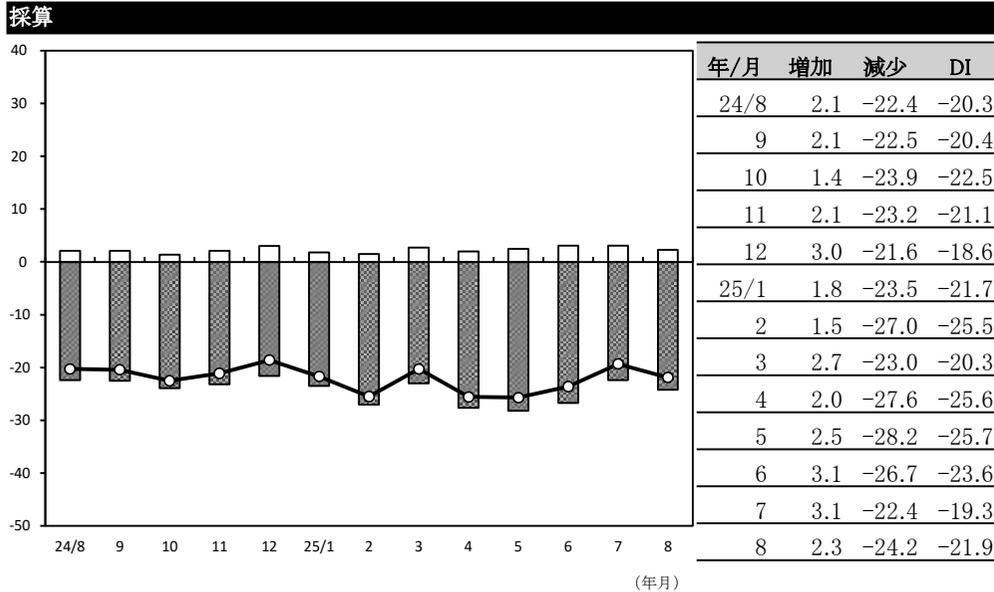
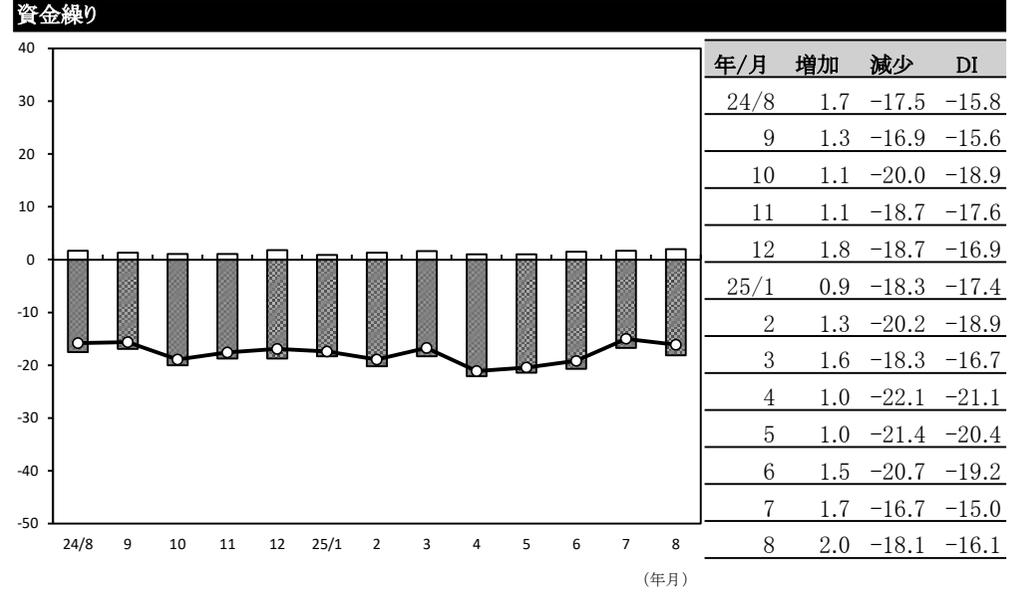
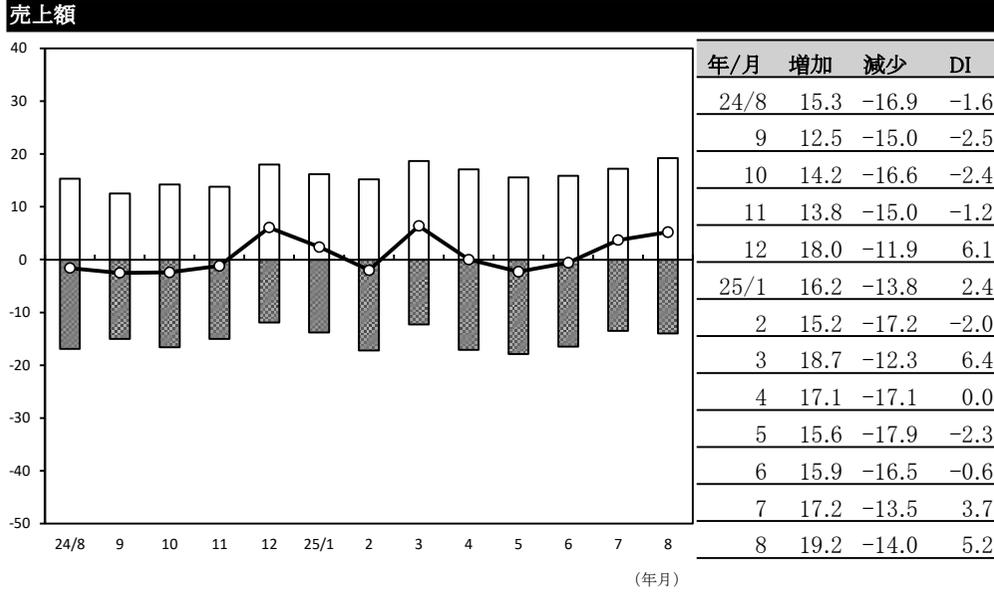
## 製 造 業【機械・金属】（前年同月比）



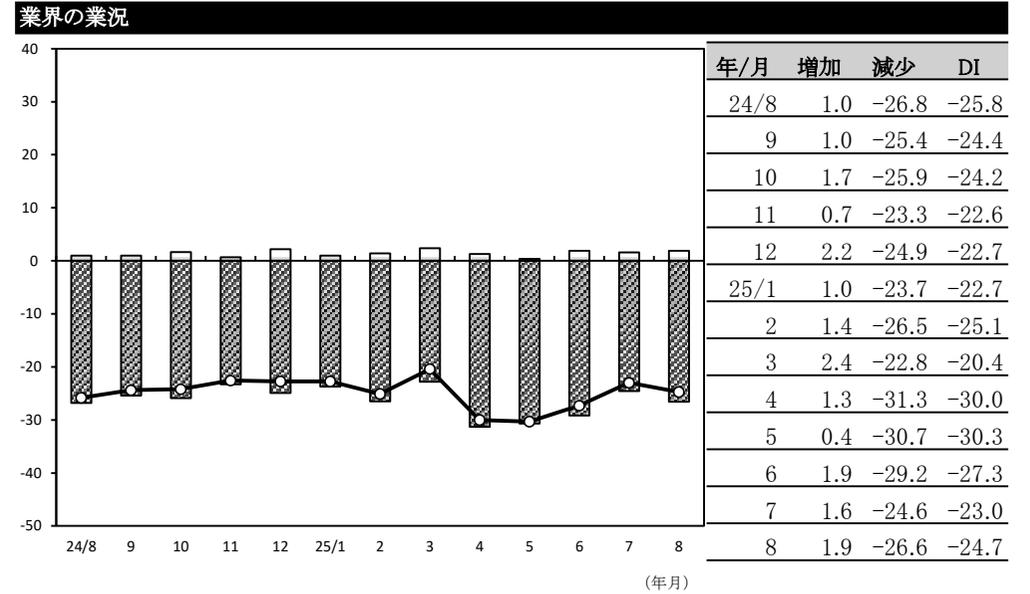
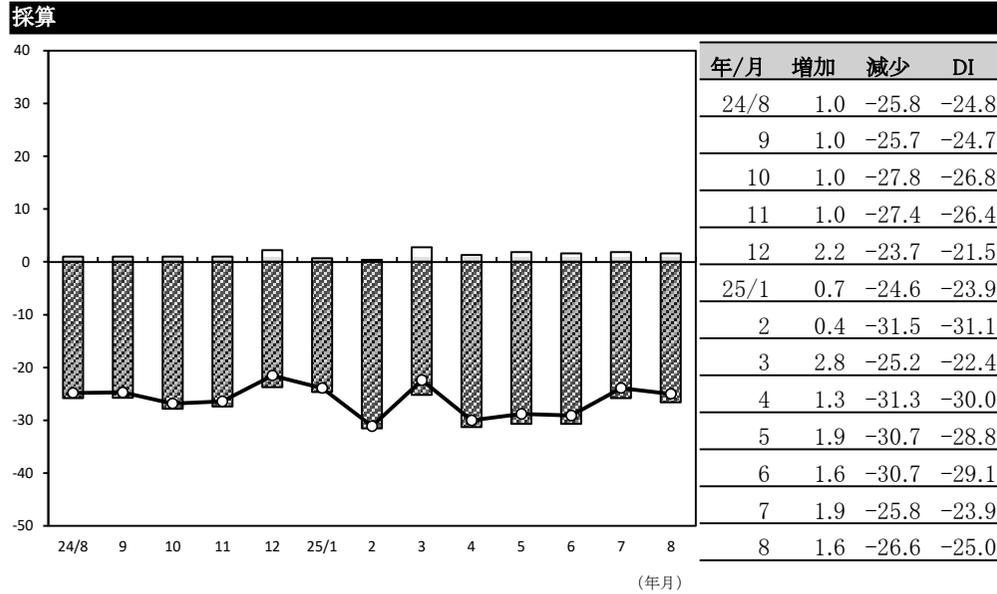
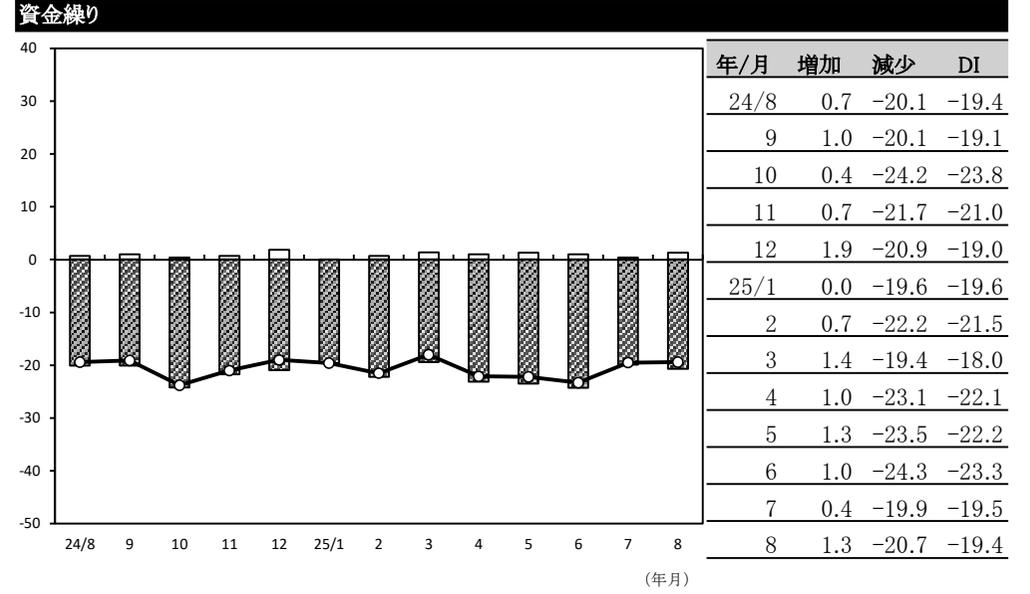
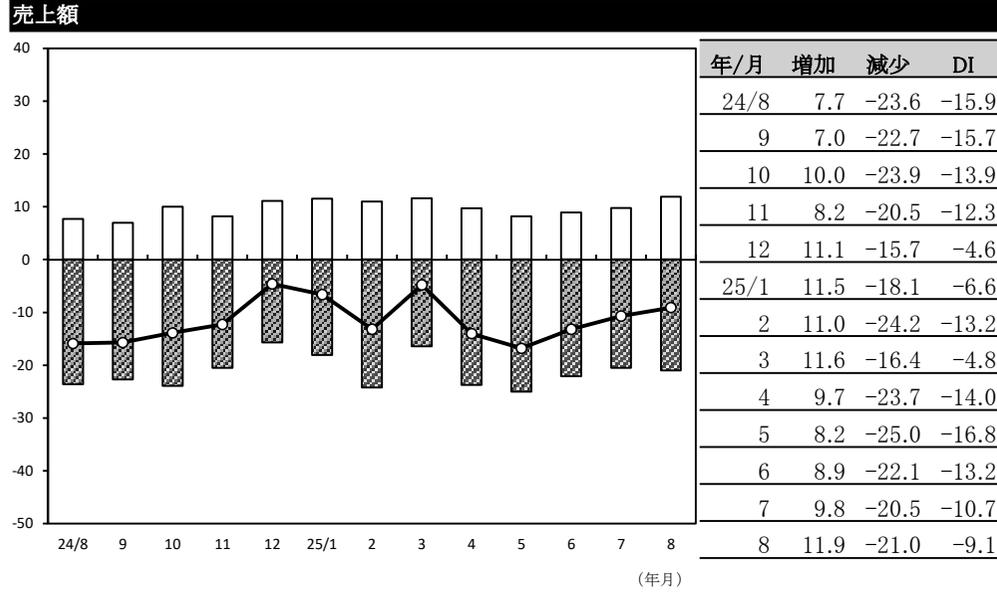
## 建設業(前年同月比)



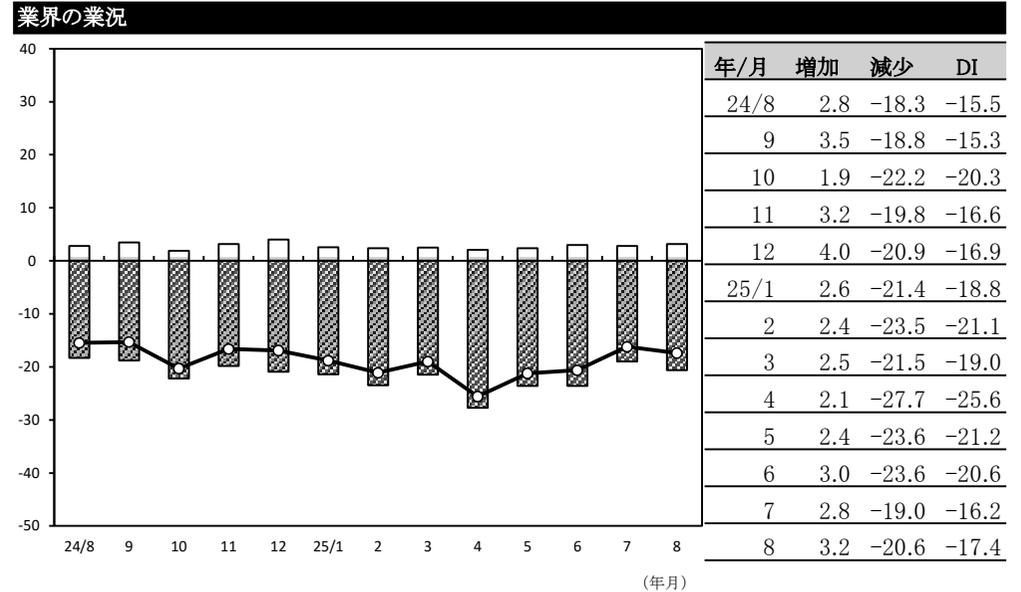
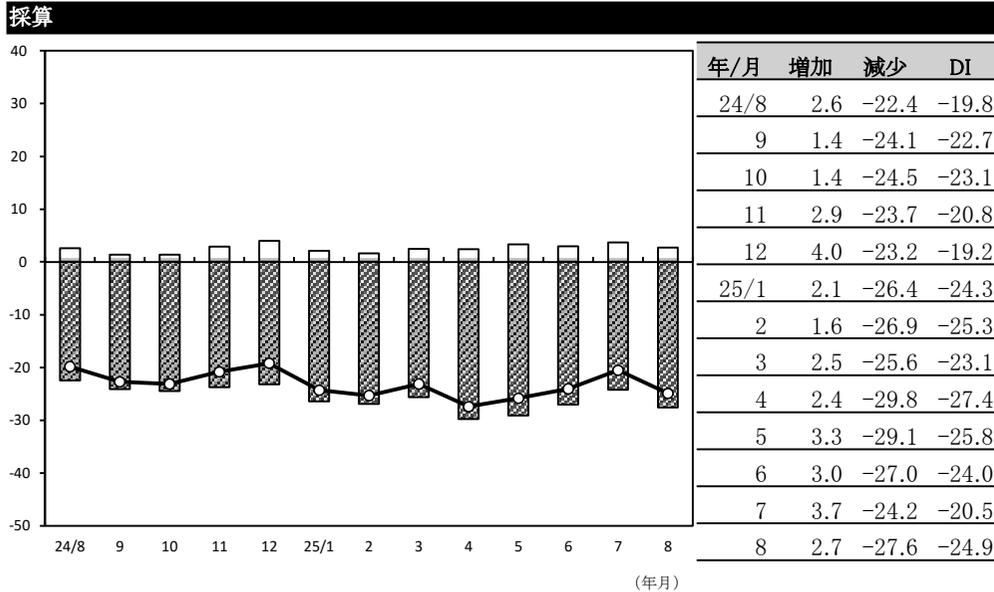
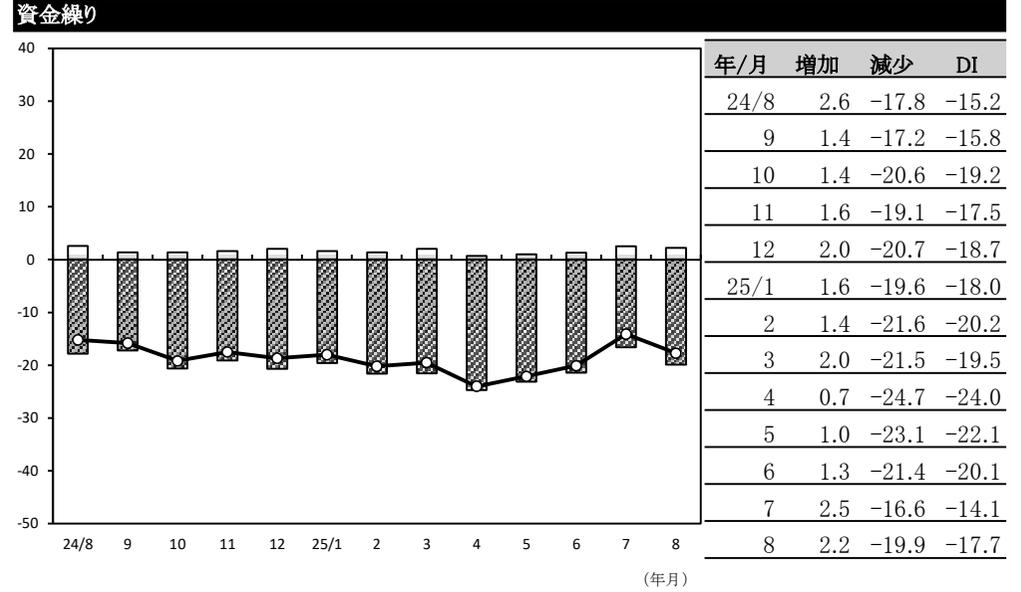
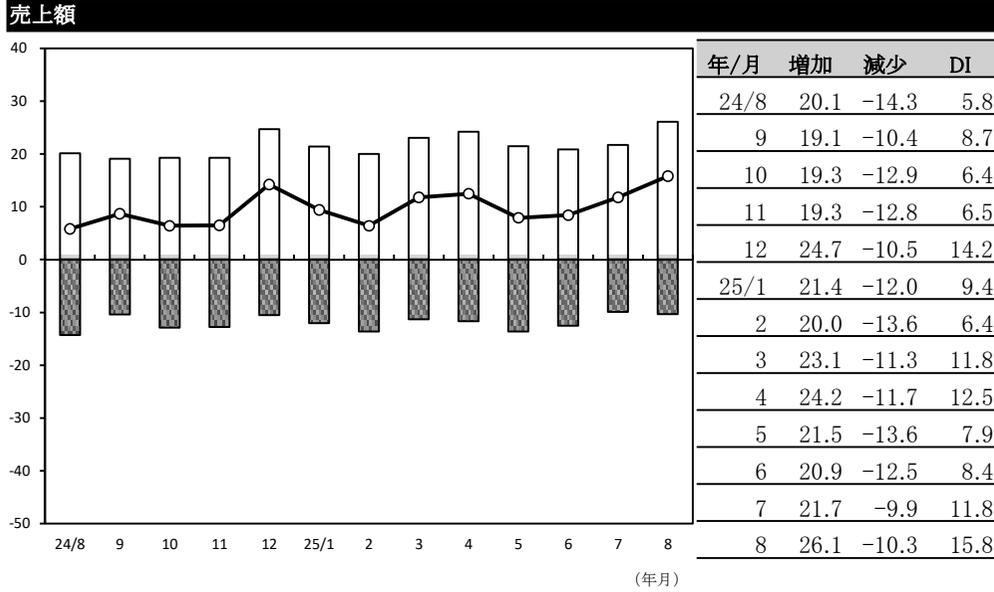
## 小 売 業(前年同月比)



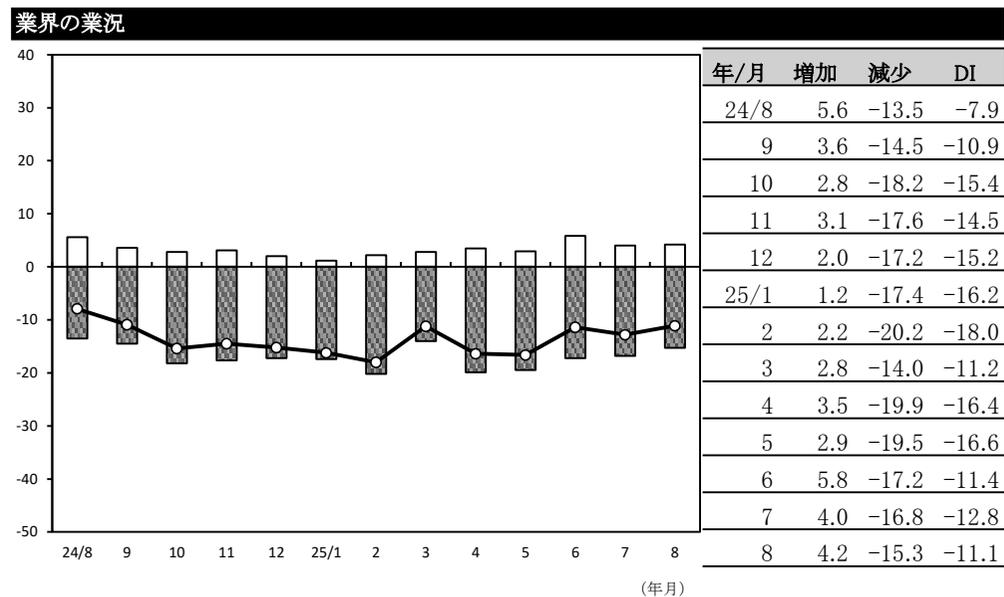
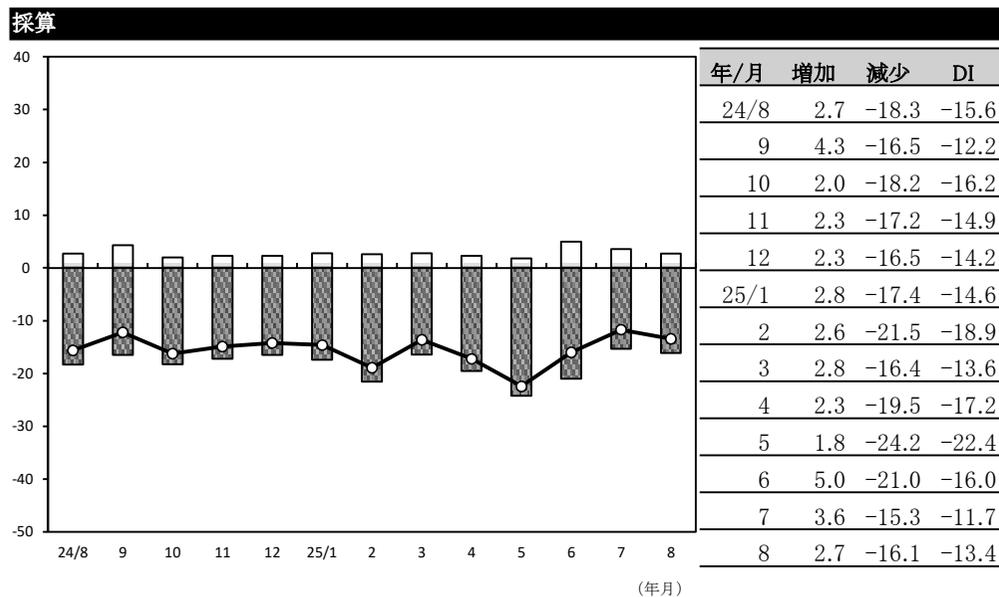
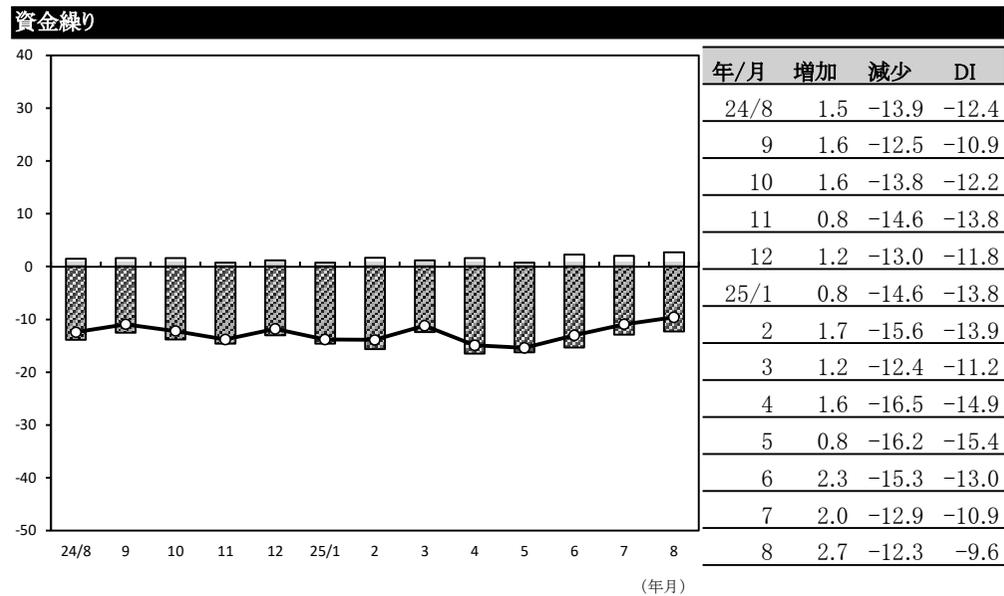
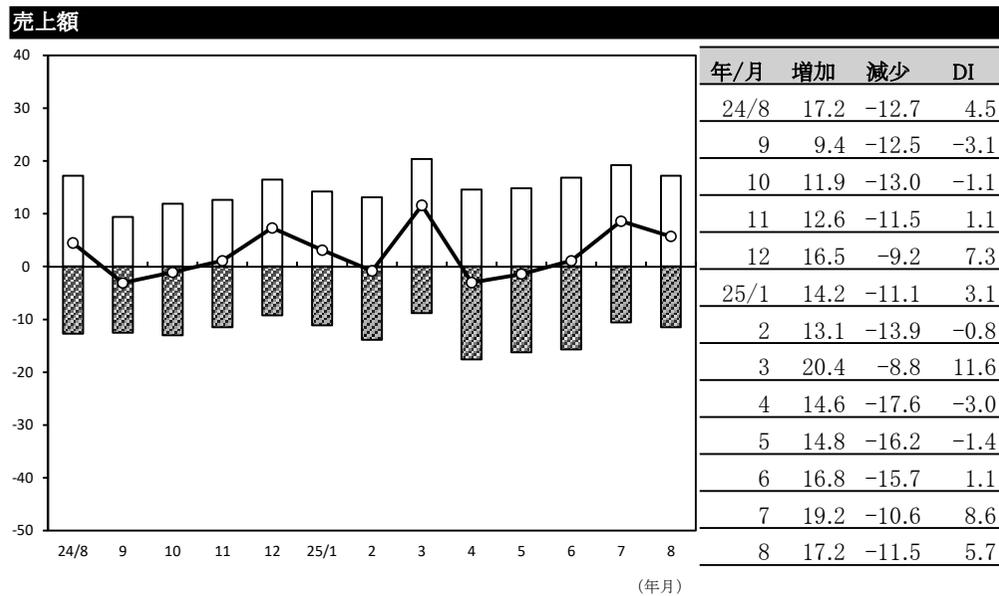
# 小売業【衣料品】（前年同月比）



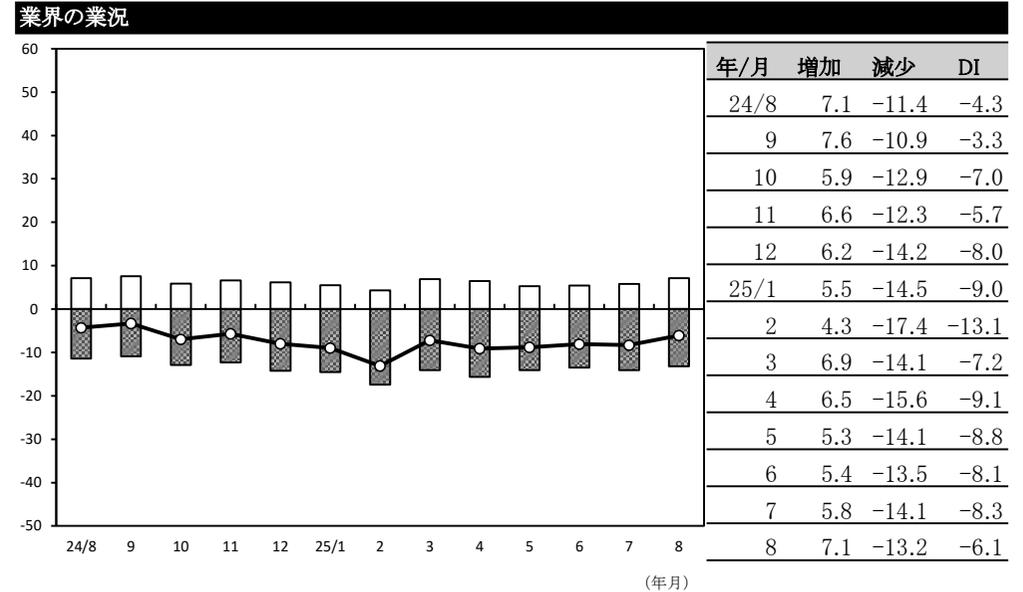
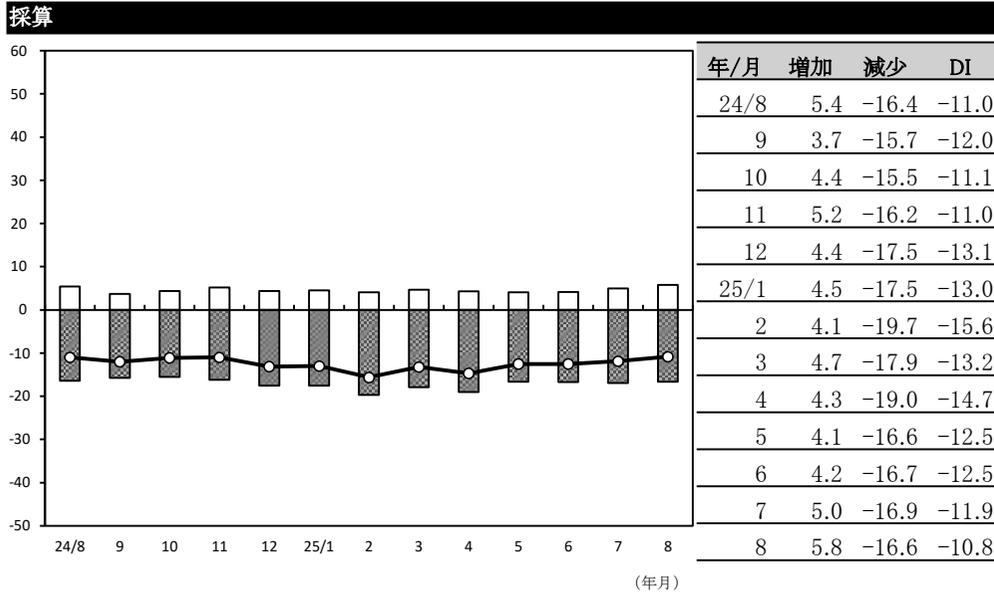
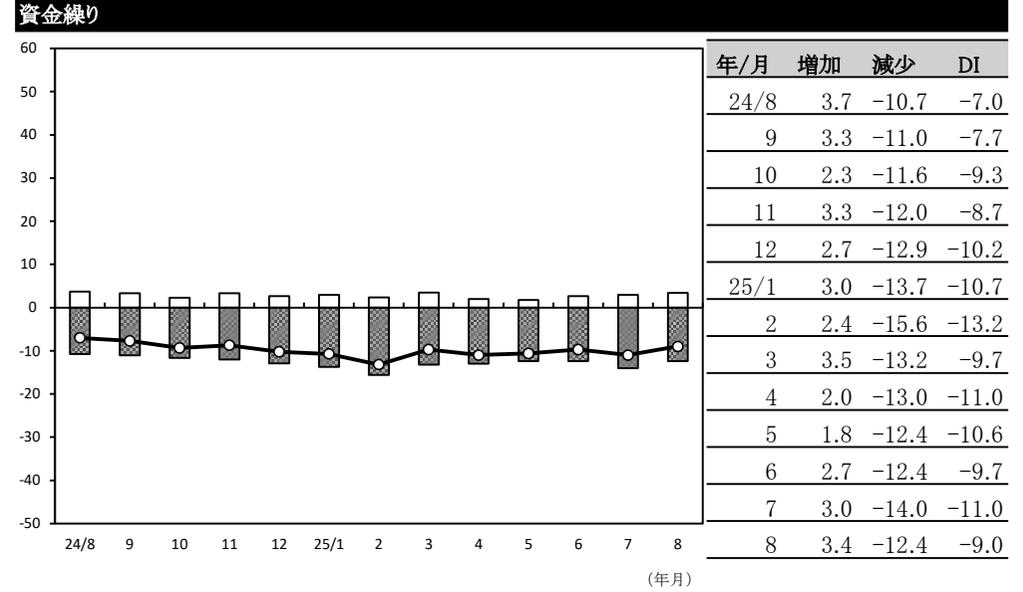
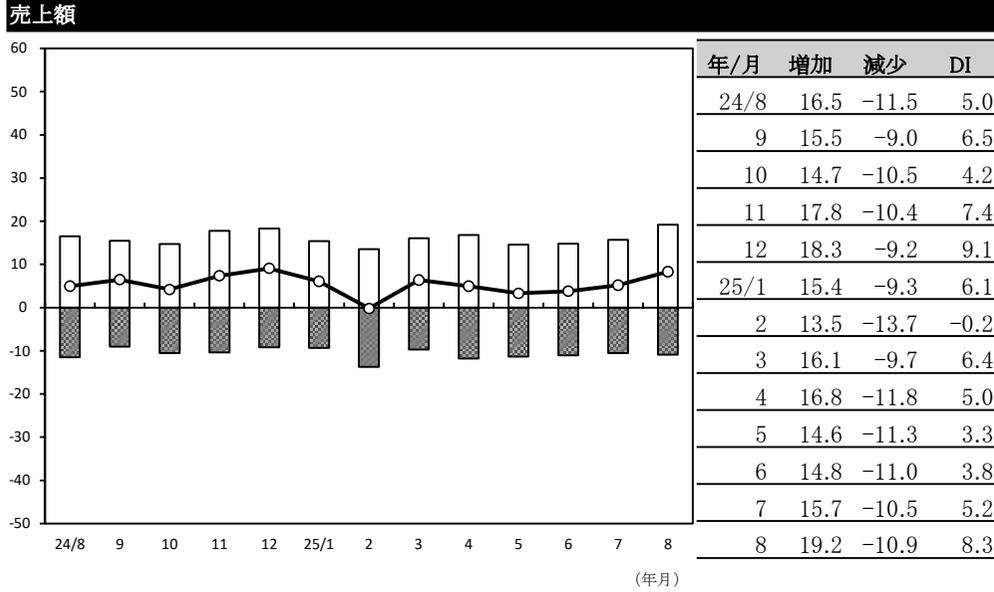
# 小売業【食料品】（前年同月比）



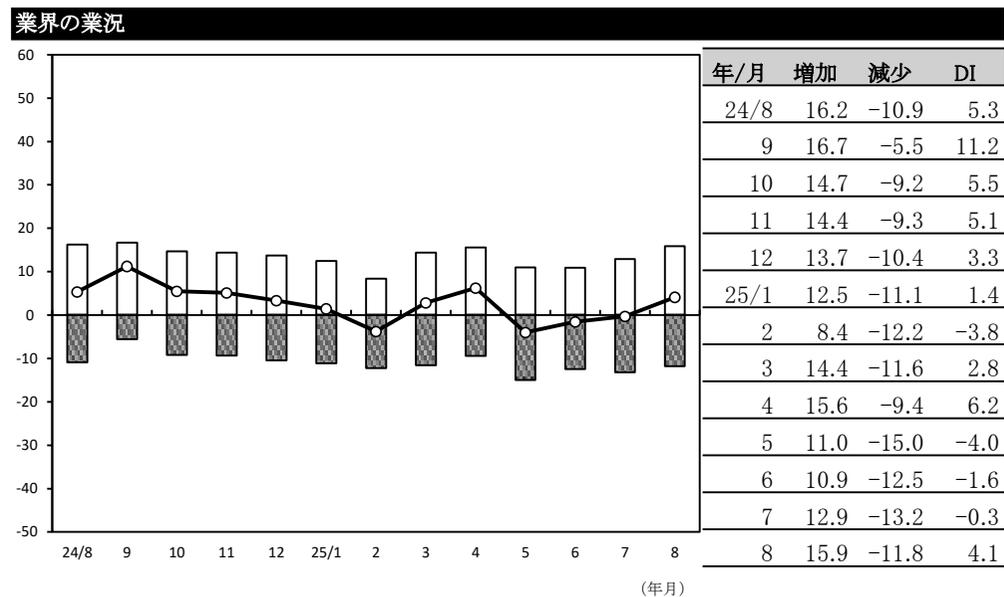
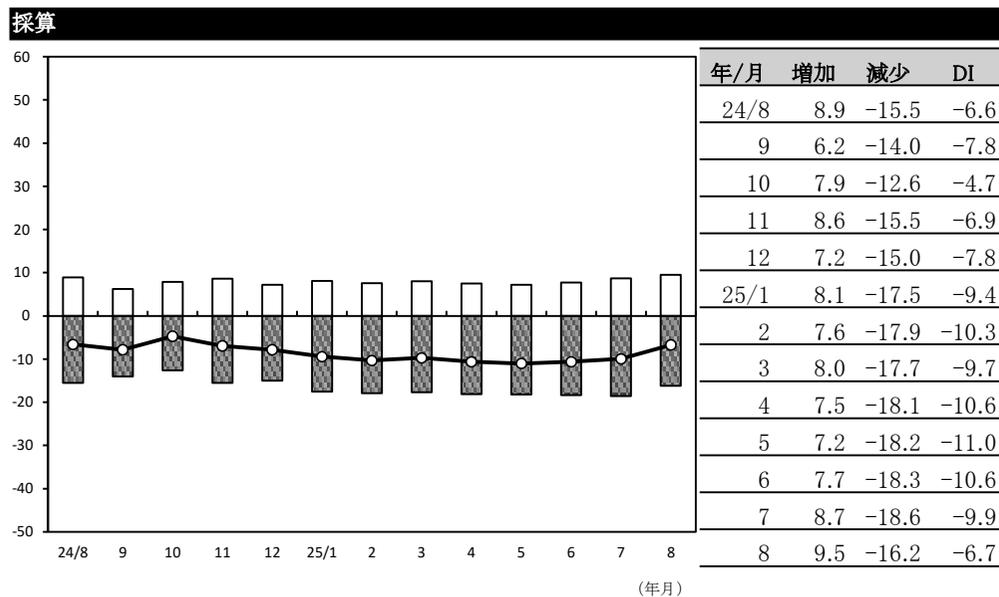
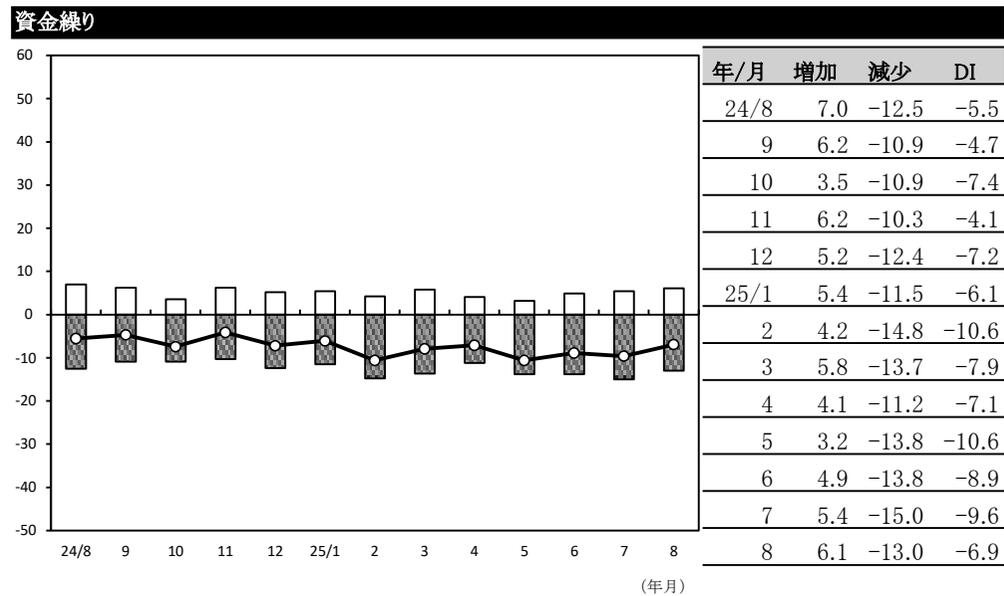
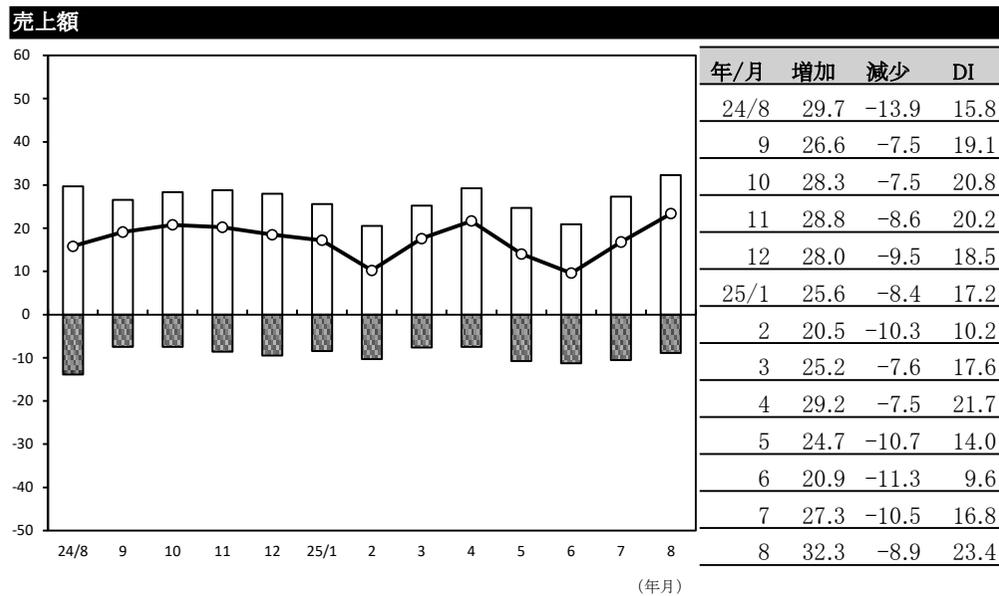
## 小 売 業 【耐久消費財】（前年同月比）



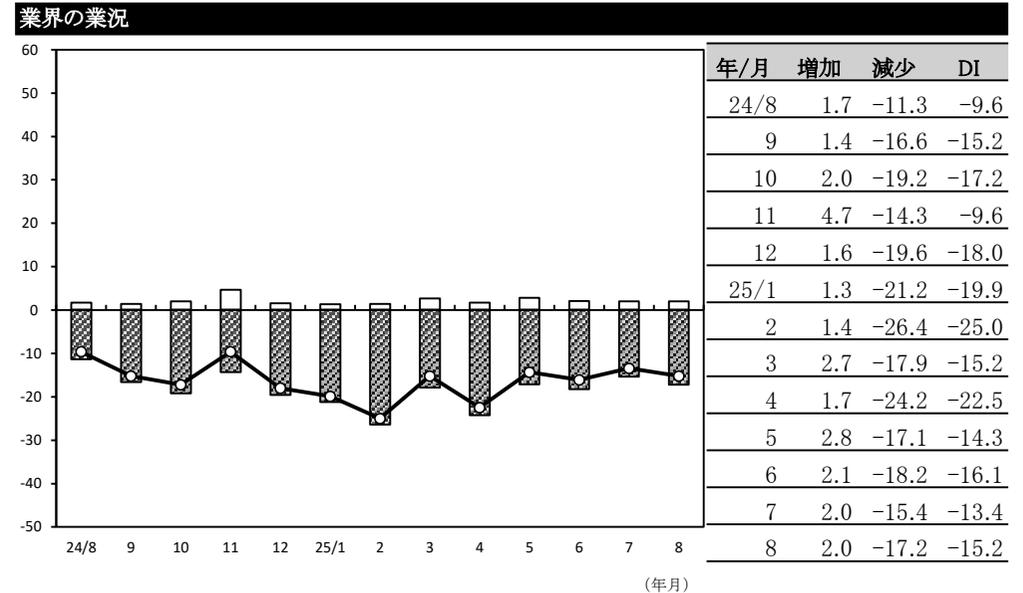
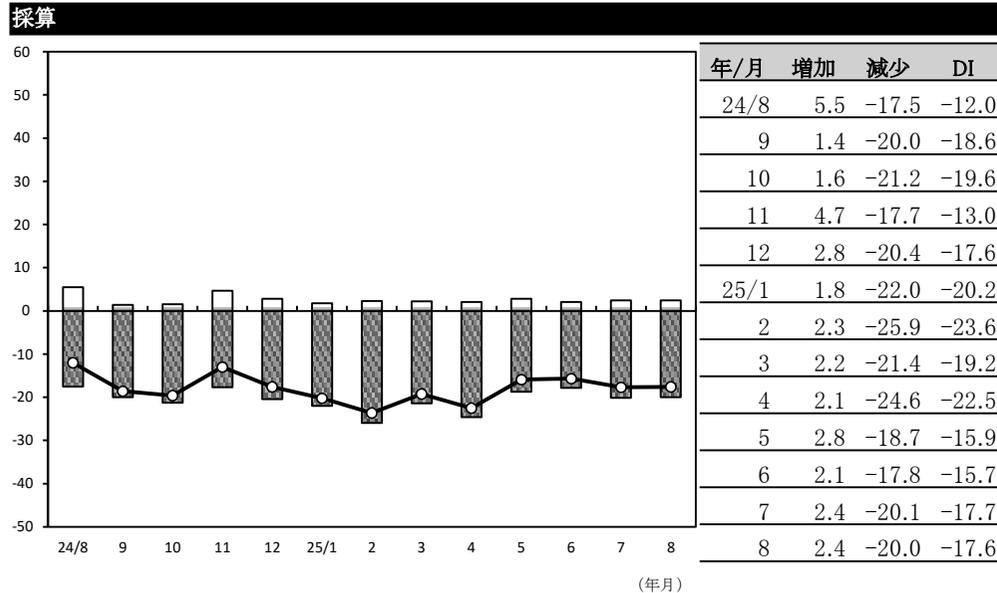
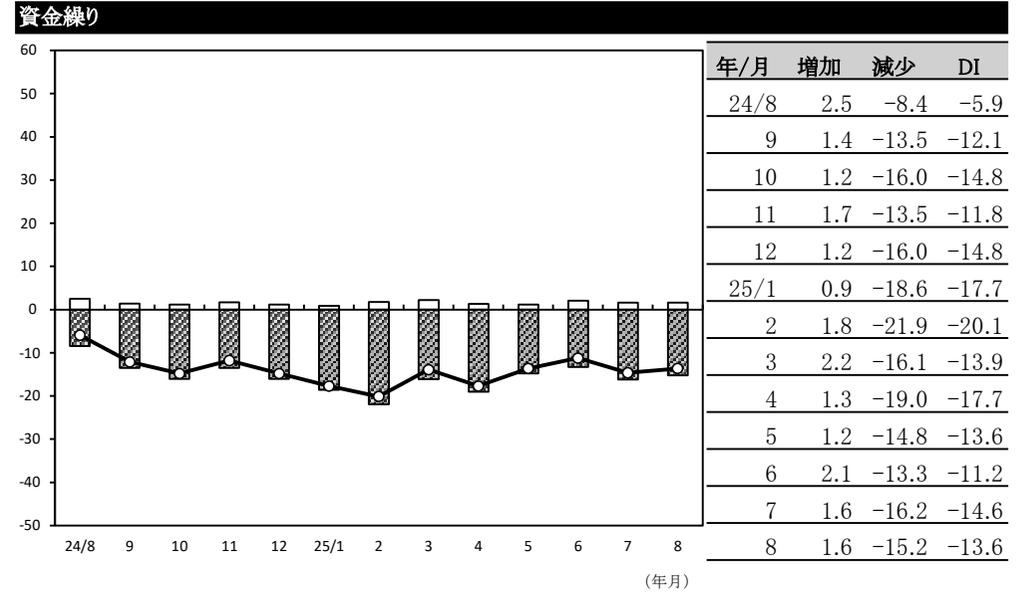
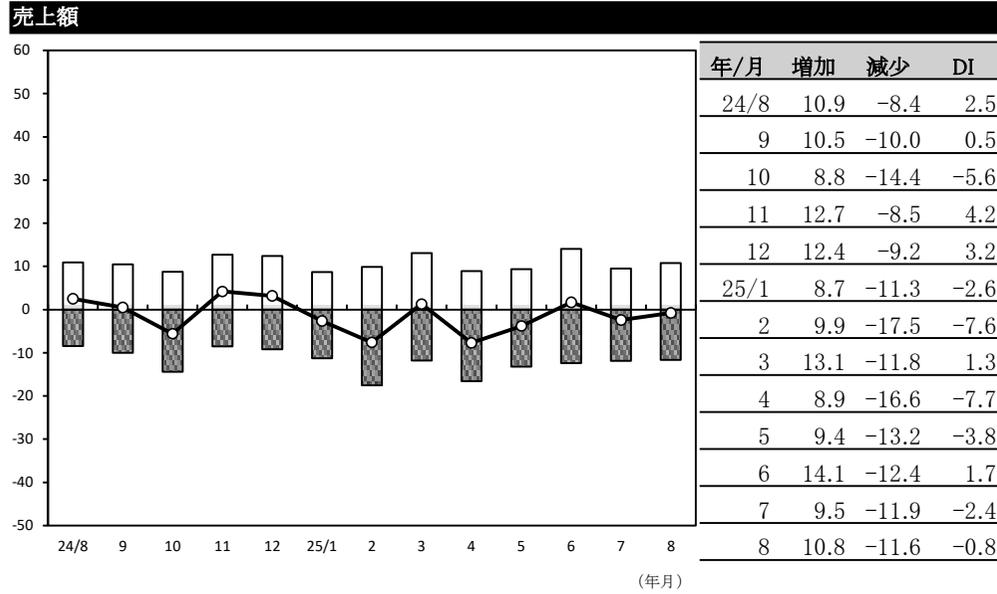
## サービス業(前年同月比)



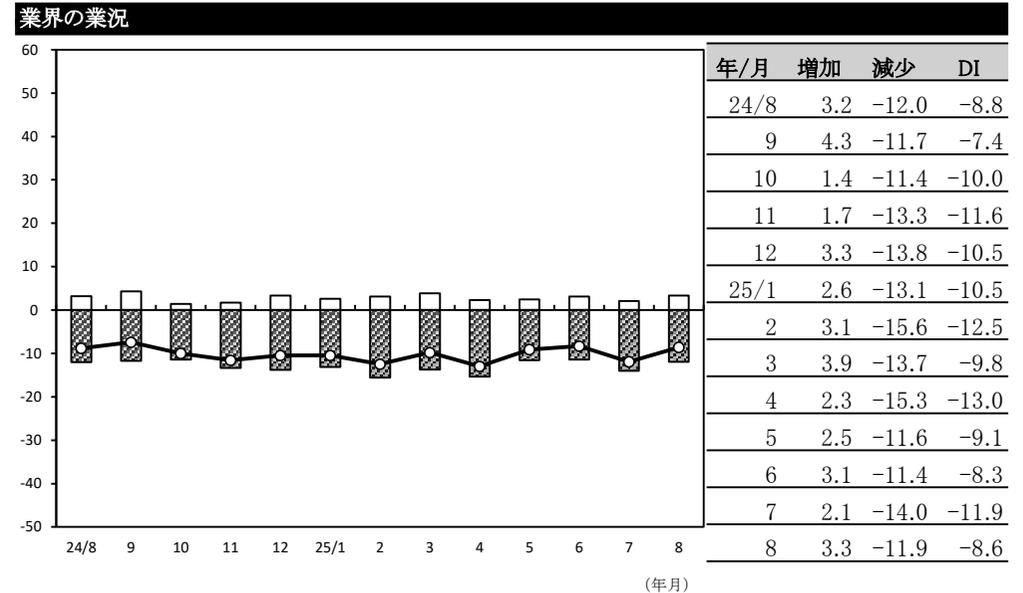
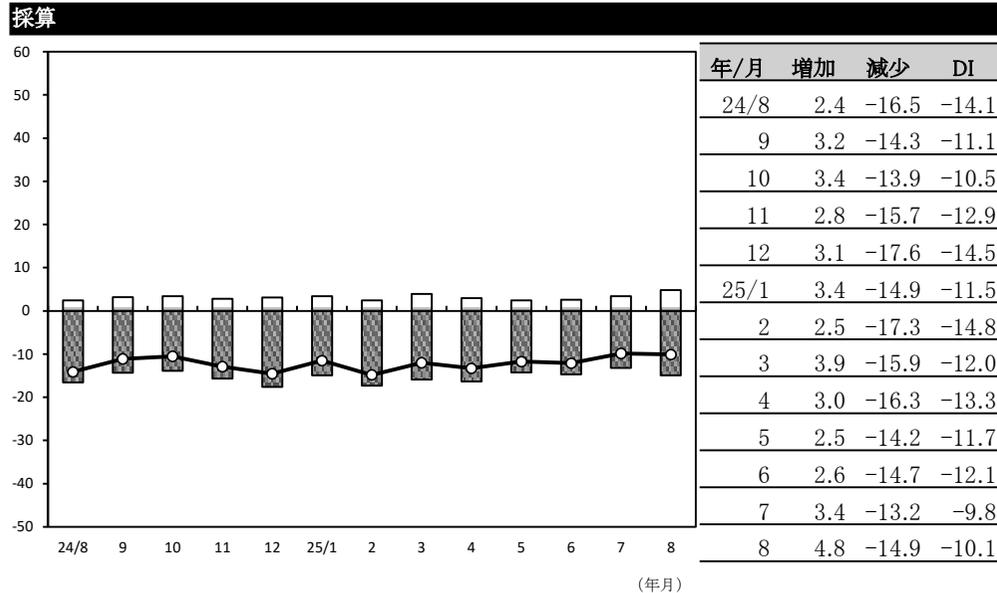
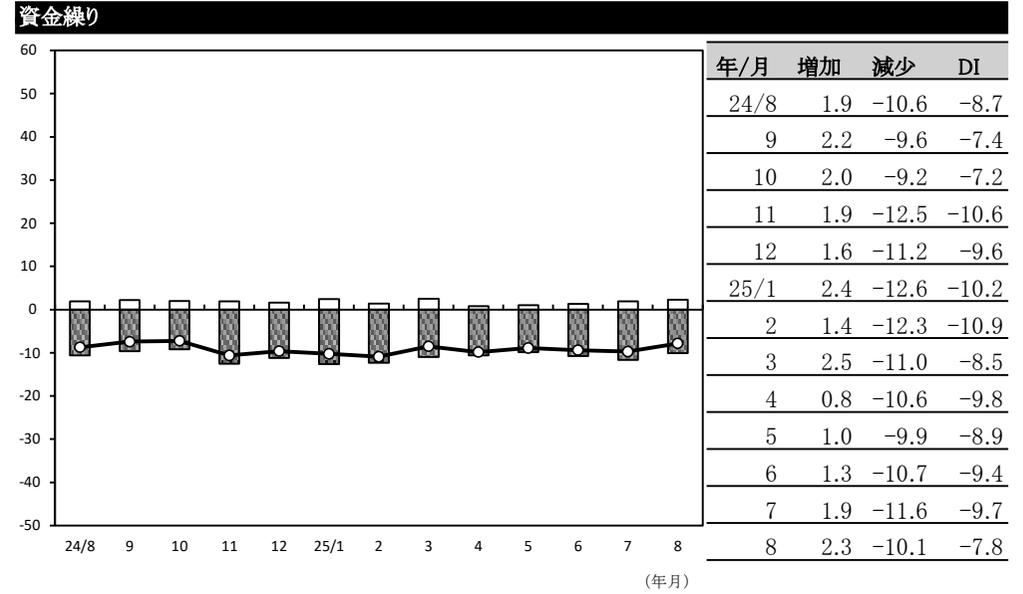
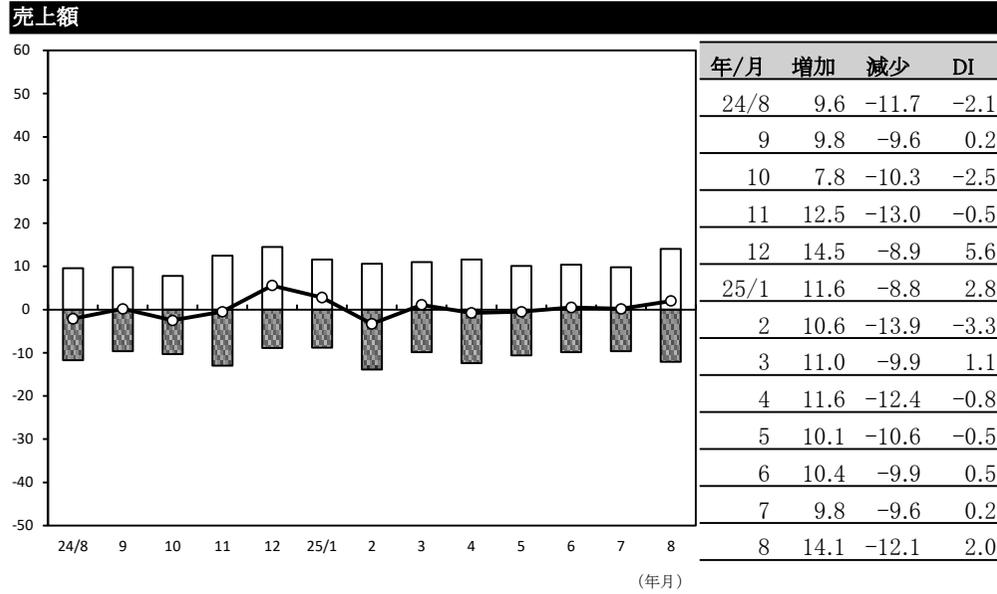
## サービス業【旅館】（前年同月比）



## サービス業【クリーニング】（前年同月比）



## サービス業【理・美容】（前年同月比）



## 小規模企業景気動向調査(8月期)における商工会経営指導員の主なコメント

\*コメントについては、経営指導員回答の原文を掲載。

### 1. 景気全般

#### <改善傾向を示すコメント>

各業種全般的に堅調に推移。比較的天候に恵まれ少ない観光関連施設の入り込み客数増とのこと。一次産業も天候に恵まれ大きな災害なく、地区内経済に安定感がある8月であったため次月も安定した推移の予想もあり業種によっては設備投資の為に融資増が伺えた。反面、変動金利の上げ幅は大きく感じており金利上昇傾向が続いているので固定金利の利用やマル経の推進を積極的に周知していく。

(北海道小平町商工会)

物価高疲れも一巡し、慣れてきたのか消費は堅調に推移。商品のマイナーチェンジをしているところや販売方法の改善等により顧客に支持される努力をしている企業は業況が改善傾向。高齢化等、環境変化についていけない企業については減少傾向がみられる。消費者の求めているもの、求めている情報にすばやくキャッチアップできる企業は増収増益を続けている。

(山形県南陽市商工会)

仕入価格等の物価上昇傾向は依然として続いているが、小売価格の値上げ等によって対応を図っている事業所が多い。また、建設業界も比較的好調。

(群馬県みどり市商工会)

前年に比べてお客の入りは好調。コロナ禍以前の客数に戻りつつある。グリーンシーズンはインバウンド客は減少気味である。

(長野県小谷村商工会)

夏季の観光・帰省のシーズンで景気は良いと回答する業種が多い。特に今年の夏季は長い連休が重なったこともあり、帰省客が多く小売業と宿泊サービス業の事業者が景気に好感触の回答をしている。小売業の景気上昇にけん引されて、卸売業事業者や飲食店経営の事業者も売上好調の回答があった。

(長崎県新上五島町商工会)

#### <悪化傾向を示すコメント>

コスト増、特に人件費の増加を不安視する意見が多かった印象。売り上げが例年並み～減少にある中、コスト増加は事業所にとって先行きへの不安の大きなウェイトを占めており、一部で従業員雇用計画の変更を行う等、好調でない業績の事業所にとっては対応が困難な状況が続いている。

(宮城県栗原南部商工会 瀬峰支所)

昨年行えなかった地域イベントが無事開催され、域外観光客・インバウンドが当地を訪れ交流人口が増えた。しかし後半に豪雨災害に見舞われ、被害を受けた地域では現在も復旧作業を行っている。間接被害も今後増えるか状況を注視していく。

(秋田県仙北市商工会 田沢湖支所)

仕入単価の上昇がどの業種においても課題となっている。市内のイベントは固定売上として期待している事業者も多く、売上に好影響を与えているものの、昨年度と比較して経費が上昇していることで利益は減少傾向の様子である。また、発表された最低賃金上昇を心配する声が多く聞かれる。

(東京都福生市商工会)

資材関係、食料品関係の高騰は収まる様子が見られない。併せて、従業員の雇用についても外国人の検討や仕事量から退職をしてもらうなど、今後の最低賃金が上がる影響も多少は見受けられることから採算と併せた経営が今後の課題となってくると予想される。

(静岡県天竜商工会)

各業種において、売り上げが向上しているが、これは仕入単価が上昇していることによる値上げをしたことによる起因している。しかしながら、値上げ幅が仕入単価の上昇分よりも小さく、利益確保に必ずしも繋げることができていない。

(滋賀県東近江市商工会)

原材料高騰による影響がすぐに収まるとは思えない。加えて最低賃金がアップされれば企業はさらに利益を圧迫されかねない。価格転嫁できれば問題ないのだがなかなか小規模事業者では難しいのが現状である。

(和歌山県上富田町商工会)

国は物価高を理由に最低賃金(給与)のアップを唱えているが、地方の事業者は従業員確保と人件費を抑えた経営努力をしている。来年からの西予市財政の緊縮化(3年間)による各種補助金カットが見込まれ、市内の事業者は益々経営が厳しくなることが予想される。この3年間をどう乗り切り、以後の景気回復へ繋げていくか課題である。

(愛媛県西予市商工会)

全体としては8月に発生した豪雨災害の影響により、被災事業所が多数ある状況となっており、原状回復費用支出が増加することが見込まれている。景気全般としてはやや悪化、横ばい推移であると考えるが、災害の影響が今後どのように出てくるのかを慎重に見極め支援を行っていく必要がある。

(熊本県宇土市商工会)

## 2. 製造業

### <改善傾向を示すコメント>

食料品関連の事業者は、今年度は曜日の並びの影響なのか、お盆期間の売上が増加した。観光関連向も増加したが、飲食業用は例年の130%~150%の伸びを記録した。繊維工業関連の事業者は、季節の移り替わりに向けた先行衣服製造の受注対応。売上等ほぼ昨年と同等水準で推移している。機械・金属関連の事業者は、売上・受注ともに減少し来月もこの傾向は続くと思われる。週休4日の状態で雇用調整助成金を活用している状況となっている。

(秋田県かづの商工会)

培った技術力により、取引先と良い関係ができています。それにより業界全体の景況感は悪いが、当社としては原材料の高騰分についても価格転嫁ができています。

(茨城県古河市商工会)

8月期は市外県外からの流入が増える。食品製造業に限ってだが、市内観光業の底上げによるポジティブな影響が出ている。

(岐阜県中津川北商工会)

【I-1】コロナ収束以降徐々に増加傾向の夏祭り需要により氷と焼きそば麺の売上げ増。大きな影響はないが、抹茶がインバウンド需要により価格が1.5~2倍になっている。

【I-2】原材料高騰は収まり若干低下し始めている。少しは状況が良くなってきている。

(滋賀県野洲市商工会)

【食料品製造業】天候不順による作物不足、これを受けての日販品の高騰、原油価格についても依然として高水準を維持しており、利益を圧迫しているが、徐々に価格転嫁が実現している。

【機械金属製造業】TSMC関連の波及からあらゆる分野で恩恵の広がりがみられる。

(熊本県熊本市託麻商工会)

### <悪化傾向を示すコメント>

物価高騰の影響は依然として続いており、人件費の上昇やエネルギー価格の高騰もあり、製造コスト自体も上昇していることから、利幅の少ない経営を強いられている状況にある。

(福島県会津美里町商工会)

食料品製造業関連の事業者は、地産地消の広がりや健康志向商品の需要増が寄与する一方で、原材料価格の上昇により仕入単価はやや上昇した。ただし、価格転嫁や効率化の工夫により採算はおおむね不変を維持し、資金繰りも大きな変化は見られない。縫製関連の事業者は小ロットの注文が国内小規模事業者に回帰してきたため受注は現在安定しているとのこと。機械金属製造業関連の事業者は、前年同月比で売上は大きな変化がなく不変となっている。一方で、原材料や部品の価格上昇により仕入単価が上昇し、採算はやや悪化している。

(栃木県那珂川町商工会)

製造業に関しては毎回、食料品製造業のコメントとなるが、食料品製造のための製造原価は高騰のまま、減少傾向は見られていない。また、最近、最低賃金の増額によってますます従業員を雇用する企業にとって、物価高騰に伴う価格転嫁は避けられない状況になっている。

(東京都清瀬商工会)

食料品製造については、昨年度同月比と比較すると大きな変化は見られない。異常気象による作物の不作が仕入れ値を圧迫していることや、人件費の増加もあり資金繰りが少し苦しくなっている事業所も見られる。

(三重県伊勢小俣町商工会)

製造業全般では、食料品製造業は受注自体は堅調で売上・採算・資金繰りに大きな変動はみられないものの、人手不足が生産体制に影響し業況感はやや悪化している。繊維工業では一部の事業所で受注が増加し、売上はやや改善傾向にあるが、業界全体としては横ばい感が強い。総じて受注面での底堅さはあるものの、人手不足やコスト環境に不透明感が残り、明るさに欠ける状況が続いている。

(兵庫県丹波市商工会)

・食料品関係:お盆もあり売上はやや増加したが、お盆期間が長く観光客が分散したか。

・繊維工業:10月に予定されている最低賃金の引き上げは、人件費の増加に直結するため、経営にとって大きな懸念材料となっている。

・機械・金属:米国関税等の影響、物価高騰に関しても特に影響はない模様。最低賃金上がる事による人件費等の上昇の方が影響が多いとの事。現状最賃より10円程高いとの事。

(鳥取県琴浦町商工会)

商品価格が上昇傾向にあり、自社商品も値上げした。最低賃金光熱費等の値上げに伴い、手元に残る資金は減少している。

(徳島県上勝町商工会)

アメリカの自国ファースト、不安定な関税問題。物価上昇で自社商品の価格に転嫁したいのだが、庶民の容易な節約方法は、食品であり、値上げすると売り上げに直接影響するので決断が鈍る。

(愛媛県西予市商工会)

現状で人手不足感が強く、今後さらに人材確保が困難になることも予想される。

(長崎県対馬市商工会)

### 3. 建設業

#### <改善傾向を示すコメント>

新分野進出を検討する建設業者が多数見受けられるが、初期投資を多く要する場合は殆どのため融資や補助金等資金繰りの提案をしていく。

(青森県東通村商工会)

受注量増加にて安定した売上の確保ができた。公共工事の工事単価増加しているものの、物価高に単価が追いついていないとのことで、単価見直しを求めている状況。増収減益の企業が多い。

(山形県南陽市商工会)

建設業関連の事業者は、公共投資と民間設備投資の底堅さを背景に売上増加傾向で推移している一方、資材価格や人件費の上昇によるコスト圧迫が続くものの、好採算案件への注力で利益・業況は改善気味となっている。

(山梨県身延町商工会)

建設業では、省エネ基準の義務化および4号特例の縮小という法改正の影響のため、新築着工に大幅な遅れが生じているが、夏の半期末に向け引き渡しを急ぐ動きや納期遅延の解消により、9月以降は売上増加が見込まれ、計画的に価格転嫁が可能な状況になっている。

(岐阜県大垣市商工会)

土木・建築ともに受注状況は例年並み。建築は4月の法改正による駆込需要と反動減を警戒していたが、概ね例年並みで推移している。

(鳥取県鳥取市西商工会)

塗装工事業は、元請が好調なこともあり、受注が増加しているが、人手不足もあり、これ以上の拡大に限界を感じている。外注や従業員のため、適正価格での仕事しかないため、利益は確保できている。

(福岡県古賀市商工会)

公共工事の受注及び、町内の建物の老朽化によるリフォーム工事等、需要はしばらく続く見込み。技術を持った作業員の確保が目下課題と言える。

(沖縄県金武町商工会)

#### <悪化傾向を示すコメント>

建設業界では若年層を中心とした人手不足が深刻化しており、加えて今後の賃上げの流れが企業経営にさらなる負担をもたらすことが懸念されています。

(宮城県みやぎ仙台商工会)

建設業関連の事業者は、公共工事は依然振るわず、売上減が続いている。物価高・人件費高騰による工事原価の増加で資金繰りも悪化。業況については、大雨の影響で復旧作業のニーズで稼働が高まっている業者もある。

(秋田県かづの商工会)

一部資材は値下がり傾向もあるが、生コンや合板などは依然高値の状態が続いている。また、一人親方等のコストが上昇に伴い、外注費上昇から採算性の低下もみられる。

(茨城県つくば市商工会)

材料の価格が上昇しているが、リフォームなどを中心にハウスメーカーなどの台頭が進み売上を確保することが厳しい事業者が出ている。人材不足も顕著であり、若手の雇用創出や育成が必要な業界である。

(千葉県香取市商工会)

建設業関連の事業者は、地震関連の需要が旺盛で人手不足を感じている。

(石川県能登鹿北商工会 田鶴浜支所)

土木工事業者について、特に民間工事需要が少なく、売上は低空飛行状態であり、採算は悪化傾向。例年秋以降に民間工事需要が増える傾向にあるが、引き合いは活発ではない。

(福井県福井東商工会)

公共工事の発注がなく業況は悪化。大規模工事の少ない地方においては公共工事への依存率が高く業況の悪化が顕著。公共工事は安定した収入源である一方、発注件数や工事額に大きく左右されるため特に小規模事業者の廃業や倒産が増加すると予測される。

(長野県上松町商工会)

工事の受注は増えてきているが、外注費や仕入価格も高騰しており、利益はほぼ横ばいとなっている。

(大阪府羽曳野市商工会)

全体的に不況である。公共工事が少ないのはもちろんだが、あったとしても強い企業の一人勝ちの状況。強い企業と取引があるところは良いが、そうでないところは仕事が回ってこない。

(和歌山県上富田町商工会)

材料費がかなり上昇している中、昔からの取引があるお客様からは、社会的に資材が2倍から3倍に値上がりしているのは分かっているが、以前の金額で見積を依頼される。採算が合わないが、先代からのお客様であり、引き受けしている状況

(福岡県添田町商工会)

物価高騰の影響により売上額は増加しているものの、資材価格や仕入単価の上昇がそれを上回っており、採算や資金繰りの悪化が懸念される。業界全体的に人手不足感はあるものの、人件費の増加も痛手であり、頭を悩ませている。

(長崎県諫早市商工会)

## 4. 小売業

### <改善傾向を示すコメント>

仕入単価増加に苦しむものの、毎年同月はイベントの関係で増加している。今年は来場者が多かったため全体的に売上額は増加した。

(宮城県東松島市商工会)

衣料品小売業については、夏物衣料の販売が好調であった。

(埼玉県東松山市商工会)

衣料品関連では、近年の猛暑によりさらに薄手ものなど安価なものが売れる。特に着物などを取り扱いする場合はさらに売れない。

食料品関連では、調味料などの価格は1.5倍～2倍になっている。

エアコンなどの耐久消費財は、例年だと7月～8月中旬まで取り付け等でいそがしいが、近年は8月下旬まで忙しい。

(石川県美川商工会)

食料品小売業について、瀬戸内国際芸術祭夏会期の期間中もあり、展示作品周辺の事業所やお土産商品を販売している事業所を中心に大幅に売上増となった。ただし、一過性のものであり、今後の安定集客には自社の魅力を感じてもらえるような取組・準備が必要との声もあった。

(香川県さぬき市商工会 寒川支所)

耐久消費財小売業界は酷暑の影響もあり、エアコンの修理・買替・新規購入などで売り上げは上昇している。

食料品小売業者は昨年と比較して、離島への帰省客と観光客の数が多く、売上の上昇を感じると回答。

(長崎県新上五島町商工会)

### <悪化傾向を示すコメント>

依然として値上げが追いついていないように感じる

(岩手県岩手町商工会)

衣料品小売業では物価高による消費者の節約志向が強まり、購買単価も減少傾向である。利益確保並びに資金繰りのため値下げ販売せざるを得ず、業況は厳しい状況にある。食料品小売業では、一部の仕入単価は安定しているものの、今後さらなる値上げが予定されるものもあり、採算性がさらに悪化することが懸念される。耐久消費財小売業では、調査対象事業所においてはやや好調感があるものの、地域によっては競争が激化し、また、補助金等の政策にも左右されることから、今後注視していく必要がある。

(茨城県つくば市商工会)

衣料品小売関連の事業者は、前年同月比で売上がやや減少している。消費者の節約志向が強まり、来店客数や購買単価が伸び悩む一方で、仕入単価は原材料価格や物流費の影響でやや上昇した。

食料品小売関連の事業者は、物価上昇に伴う販売価格の引き上げや地域需要の底堅さにより、売上額はやや増加している。一方で、原材料や仕入価格は上昇し、コスト増は継続しているが、価格転嫁の進展により採算はおおむね不変を維持している。

耐久消費財関連の事業者は、消費者の節約志向や購入の先送り傾向が強まり、高額商品の販売が伸び悩んでいる。仕入単価は物流費や原材料費の影響でやや上昇し、その結果、採算はやや悪化。

(栃木県那珂川町商工会)

相次ぐ食料品の値上げに、少子高齢化、人口減少が加わり、消費マインドが低迷している。そのような中、備蓄米の販売期限の延長は朗報に感じられる。

(新潟県寺泊町商工会)

家電小売業者について、猛暑の影響でエアコン関係の修理依頼等は増えているが、エアコンの買い替え等ではない場合が多く、大きな利益には繋がらないケースが多い。

(福井県福井東商工会)

食料品小売業者においては、野菜などが猛暑の影響で生育不良となり仕入単価が上昇。また消費者も外出を控えるなど購買行動も消極的になっているように感じる。

(愛知県飛鳥村商工会)

物価高騰による仕入価格上昇の影響を最も強く受けている業種の一つです。特に飲食料品や燃料を扱う小売店では、価格転嫁が追いつかず採算が悪化しています。顧客の高齢化や消費者の節約志向も売上減少の要因となっており、厳しい経営環境が続いています。

(京都府福知山市商工会)

猛暑の影響で外出を控えているのか、売上は減少している。

(福岡県小竹町商工会)

小売業においては、依然として物価高騰による仕入価格の上昇が続いており、収益環境は厳しい状況にある。食品や日用品においては価格転嫁が進む一方で、消費者の節約志向が強まり、購買単価の低下や来店頻度の減少が見られる。

(長崎県松浦市福鷹商工会)

町の少子高齢化による人口減少、物価高による購買意欲の低下など、明るい兆しが見えない。外国人の労働者が増えても量販店の利用が多く売上が上がらない。

(鹿児島県かのや市商工会)

## 5. サービス業

### <改善傾向を示すコメント>

旅館：台湾とのチャーター便運航の影響でインバウンドの利用者が昨年比で倍以上となっており構成比でも大きな割合を示している。また阪急交通社と県が連携協定を結んだこともあり首都圏や関西圏の客層も増加している。

洗濯業：今年は冬物の出だしが遅れたため、まだ需要は続いているが、今後は気温の高さによりファストファッション化となり需要が減る傾向が懸念される。設備の導入で新たにパソコンの購入を検討している。

理・美容：お盆前の需要と9月初旬の地元のお祭り前の需要で8月は例年客足が伸びる傾向にある。今年も例年同様、客足は好調であった。散髪は生活に欠かせないため、連日の暑さも客足に大きな影響はない。

(秋田県由利本荘市商工会)

旅館業は、大学生の旅行や合宿シーズンとなり好況。従業員不足を家族専従者でカバーしたため、疲弊気味。予約照会等が多いが全てを受けられず。

(千葉県白子町商工会)

コロナ明け以降、右肩上がりに観光客の集客は回復しており、景況感が良い声を聞く。特に中津川市における8月はハイシーズンゆえ恩恵は大きい。県外・外需の取り込みに積極的な事業者は軒並みポジティブな景況である印象を受ける。一方、地域内の顧客向けのサービス業全般はネガティブである印象を受ける。

(岐阜県中津川北商工会)

旅館業は、お盆期間が長かったことで例年より好調。他の期間は概ね例年どおり。業況は悪くないと感じている。

(岡山県真庭商工会)

宿泊は観光需要回復で売上増。理美容は安定だが、光熱費や材料費の上昇が収益を圧迫。

(熊本県大津町商工会)

### <悪化傾向を示すコメント>

猛暑の影響で外出控えが進み、来店客数が減少した。物価も高止まりしている。

(青森県今別町商工会)

宿泊業においては、暑さのためエアコンを常に稼働させている関係上、電気料が多くかかり、経営を圧迫している。

(宮城県遠田商工会)

子供たちの夏休みシーズンに加え、民間企業のお盆休み期間ということもあり観光地を中心に賑わいを見せていたようである。その反面、先月から長期にわたる猛暑日が連日のように続いていることから、例年と比較すると多少人出は少ないように感じているとのこと。また、宿泊施設も利用価格が上昇しており、一部では空室なども見受けられた。

(福島県会津美里町商工会)

インバウンド需要等観光客の増加により宿泊施設をはじめとする観光関連サービス業では売上が増加傾向にあり、取引のある洗濯業者もその影響を受けて売上は増加傾向にある。しかし、物価上昇や人件費高騰等が続いている中で採算に反映できていない傾向にある。

(群馬県みなかみ町商工会)

昨今、夏の外気温が異常気象と言われるほど高く、年配者がメイン顧客となっている店舗にとっては、影響が全く無いとは言えない状況である。

(神奈川県南足柄市商工会)

インバウンドの増加や夏の合宿等により旅館では売上が増加した。一方で食材等の仕入単価の上昇により利益は横ばいである。

(石川県能美市商工会)

理美容業においては、固定客で売上は安定しているものの猛暑の影響で電気代等、水道光熱費が上昇しやや採算を悪化させる要因となっている。

(愛知県飛島村商工会)

旅館・宿泊所関連の事業者は、夏休みの旅行シーズンのため利用客は増加した。一方で利益が伸び悩んだため、再度の価格転嫁が求められる。洗濯業関連の事業者は、衣替えシーズンオフの為、例年8、9月は閑散期で売上は減少した。仕入価格については大きな変化は見られなかった。今後、秋祭りの関係の需要が増えるため、売上は回復する見込みである。理美容業関連の事業者は、前月の売上は横ばいであったが、月2回のSNS発信により登録者数は増加傾向にある。新規顧客獲得の決め手は口コミであり、今後は口コミと連動させた短編コンテンツによる情報発信の頻度を高め、信頼性のある内容を継続的に発信することで集客力の強化を図りたい。

(岡山県みまさか商工会 勝央支所)

今後、最低賃金上昇による賃上げ、老朽化した設備の買い替えなど経費が増大し、採算が取れない状況になることが予想される。業界でも高齢化などを理由に廃業するケースも多い(クリーニング業)。猛暑や台風の影響は若干あったものの、売上に大きな影響はなかった。仕入や光熱費・人件費が上昇したことから、10月から10%程度価格転嫁を行う。今年は設備投資や賃上げなどにより赤字になる見込み。

(鹿児島県日置市商工会 日吉支所)